

平成24(2012)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 生命科学部 生命科学科

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	【学部・学科】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	【学部】 ・生命科学部において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。 【学科】 ・生命科学科において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	S		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	【学部】 ・生命科学部の目的 【学科】 ・生命科学科の目的	【学部】 ・生命科学部の目的は、教育基本法の「第7条 および学校教育法の「第83条」と整合しており、高等教育機関として適切であるといえる。 【学科】 ・生命科学部および生命科学科の目的は、教育基本法の「第7条 および学校教育法の「第83条」と整合しており、高等教育機関として適切であるといえる。	S		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	【学部】 ・「建学の精神」、「大学の理念」 ・生命科学部の目的 【学科】 ・生命科学科の目的	【学部】 ・生命科学部の目的は、本学の三つの建学の精神である「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」、「知徳兼全」を根本としている。また、生命科学部の目指すべき方向性や達成すべき成果をホームページ、大学・学部パンフレットによって明らかにしている。 【学科】 ・生命科学科の目的は、本学の三つの建学の精神である「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」、「知徳兼全」を根本としている。また、生命科学科の目指すべき方向性や達成すべき成果をホームページ、大学・学部パンフレットによって明らかにしている。	S		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	【学部・学科】 ・東洋大学研究者情報データベース	【学部・学科】 ・生命科学部、生命科学科の目的は、これまでの教育・研究実績、教員編成、設備整備・拡充の観点からみて、適切であるといえる。	S		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	【学部】 ・生命科学部の目的 ・「2012履修要覧」 p.3 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/indexj.html 【学科】 ・生命科学科の目的 ・「2012履修要覧」 p.17 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/dlsc/index_j.html	【学部・学科】 ・生命科学部、生命科学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「世界的研究・教育拠点」、「幅広い職業人養成」と「社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)」の機能を踏まえて、生命科学部、生命科学科の個性・特色を打ち出し設定されている。	S		

2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	【学部】 ・『2012履修要覧』 p.3 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/indexj.html 【学科】 ・『2012履修要覧』 p.17 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/dlsc/indexj.html	【学部】 ・生命科学部の目的を、『履修要覧』に記載し、学生および教職員に配付している。 ・生命科学部の目的、教育目標は、ホームページに記載している。 【学科】 ・生命科学部の目的を、『履修要覧』に記載して、学生および教職員に配付している。 ・生命科学部の目的、教育目標は、ホームページに記載している。	S		
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・新入生アンケート集計表 ・R-Capアンケート集計表	【学部・学科】 ・生命科学部、生命科学部の目的の周知方法の有効性については、新入生に対して春学期に新入生アンケートおよびR-Capアンケート調査を実施し、その結果を基に改善方法等の調整を図っている。	A		
	社会への公表方法	8	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	【学部】 ・『2013 MANABI BOOK TOYO UNIVERSITY』 p.50 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/indexj.html 【学科】 ・『生命科学部 パンフレット』 p.4 ・『東洋大学 2012 Guide Book』 p.44 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/dlsc/indexj.html	【学部】 ・大学、学部パンフレットでは、生命科学部の「人材の養成に関する目的」を直接記載はしていないが、目的を、より分かりやすい形で記載している。 ・生命科学部の目的は、ホームページに記載している。 【学科】 ・大学、学部、学科パンフレットでは、生命科学部の「人材の養成に関する目的」を直接記載はしていないが、目的を、より分かりやすい形で記載している。 ・生命科学部の目的は、ホームページに記載している。	S		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。		【学部・学科】 ・生命科学部、生命科学部の目的の適切性については、カリキュラム改訂時に学科会議等で議論し、適切性を検証している。	A		

(2) 教育研究組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 大学の学部・学科・研究科・専攻及び附属研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか	教育研究組織の編成原理	10	学部の目的を実現するための、教育研究組織の編成原理を明確にしているか。	・生命科学部の目的 ・『2012履修要覧』 p.3	・生命科学部では、教育研究組織の編成原理は、教務委員会および教授会で議論し、調整を図っている。	A		
	理念・目的との適合性	11	教育研究組織は、学部の目的を実現する上で適切かつ有効に機能する組織となっているか。	・生命科学部の目的 ・『2012履修要覧』 p.3 ・組織図	・生命科学部の目的、目標である「生命科学を教育研究することにより、生命の総合的理解の上に立って、地球社会の発展に貢献する創造的思考能力、かつ倫理観を合わせもった人材の育成」を実現するために、学問領域を「生命」「環境」「食」の3領域に分けて、生命科学科、応用生物科学科、食環境科学科の3学科体制で教育研究組織を編成している。	A		
	学術の進展や社会の要請との適合性	12	学術の進展や社会的な要請を考慮した教育研究組織となっているか。	・生命科学部の目的 ・『2012履修要覧』 p.3	・生命科学部の教育研究組織は、生命科学という学術の進展や、再生医療、環境修復、食の安全・安心という社会的な要請に対応するために適切である。	A		
2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか		13	教育研究組織の適切性を、定期的に検証しているか。	・「生命科学部 教授会議事録」	・生命科学部教授会において、年度毎に事業計画・課題を作成し、この中で入学者の質、地域教育・地域事業との連携を考慮した教育研究体制の整備に努め、定期的に組織の検討を行っている。	A		

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査委員会規程」 ・「生命科学部教員資格審査委員会細則」 ・「生命科学部教員資格審査基準細則」 ・「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」	・「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、「生命科学部教員資格審査委員会細則」、「生命科学部教員資格審査基準細則」、「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」に定め、生命科学部教授会を通して生命科学部の全専任教員に周知している。	S		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・「生命科学部 教務委員会規程」	・生命科学部教務委員会が、生命科学部や生命科学科における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。	S		
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。		【学部】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていないが、新規教員採用時には資格審査委員会、専任教員採用委員会で議論し、教員組織に偏りが出ないように配慮し調整を図っている。 【学科】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていない。	B		
		17 学部、各学科の個性、特色を発揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。		【学部】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていないが、必要に応じて教務委員会、教授会、各学科で議論し調整を図っている。 【学科】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていないが、必要に応じて学科会議、専任教員採用委員会等で議論し調整を図っている。	B		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	【学部、学科】 ・「大学基礎データ」表2	【学部】 ・生命科学部に 割り当てられた専任教員数を充足している。 【学科】 ・生命科学科に割り当てられた専任教員数を充足している。	S		
		19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	【学部、学科】 ・「大学基礎データ」表2	【学部】 ・生命科学部では、専任教員の半数以上は教授(64%)となっている。 【学科】 ・生命科学科の専任教員の半数は教授となっている。	S		
		20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・「大学基礎データ」表A	・生命科学部教員の各年代の比率は、 30歳:0% 31～40歳:22.7% 41～50歳:22.7% 51～60歳:29.5% 61～歳:25.0% となっており、いずれも35%を超過していない。	A		
		21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	【学部、学科】 ・「生命科学部 教授会議事録」	【学部・学科】 ・生命科学部における教員組織の編成については、カリキュラム改訂時に、生命科学科教務委員会、生命科学部教務委員会、生命科学部教授会および生命科学科学科会議で議論され、教育理念、教育目標に沿った教員組織が編成されるよう調整を図っている。	A		
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「生命科学部教員資格審査基準細則」	・専任・非常勤を問わず、新規の科目を担当する際には、生命科学部教員資格審査委員会に「科目審査」として諮り審議している。	S		

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「東洋大学教員資格審査委員会規程」 ・「生命科学部教員資格審査委員会細則」 ・「生命科学部教員資格審査基準細則」 ・「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、「生命科学部教員資格審査委員会細則」、「生命科学部教員資格審査基準細則」、「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」に定め、教授会を通して生命科学部の全専任教員に周知している。 	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生命科学部 教授会議事録」 ・「生命科学部 教員資格審査報告書」 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の採用、昇格は、規程に従って厳格に行われている。 	S		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・『生命科学部報告書:生命科学』 ・「生命科学部 教授会議事録」 ・生命科学部シンポジウムの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部の自己点検・活動の一環として、各教員の研究業績、教育実績、社会貢献活動等の一覧を、『生命科学部報告書:生命科学』に記載している。 ・日本私立大学連盟主催のFD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に新任教員を派遣し、学部内で報告会を実施している。 ・年2回、生命科学部シンポジウムを開催し、教員の研究、社会貢献活動を公表している。 	S		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。		<ul style="list-style-type: none"> ・教員評価制度は、全学的に検討する方向で議論がなされており、これらを見据えて、学部として検討する必要があり、現段階では、実施に至っていない。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施する必要がある。各活動の評価基準など課題も多く、継続的に検討を行っている。 	実施時期未定

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	【学部】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『2012履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 【学科】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『2012履修要覧』 p.17 ・『学生生活ハンドブック』 p.9	【学部】 ・生命科学部において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。 【学科】 ・生命科学部において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
		28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部において、ディプロマ・ポリシー を定めている。 【学科】 ・生命科学部において、ディプロマ・ポリシー を定めている。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	29 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	【学部】 ・生命科学部 教育目標 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/faculty_j.html ・『2012履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・生命科学部 教育目標 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/dlsc/index.html ・『2012履修要覧』 p.17 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部の教育目標とディプロマ・ポリシー は整合している。 【学科】 ・生命科学部の教育目標とディプロマ・ポリシー は整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	【学部】 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部のディプロマ・ポリシー には、修得すべき学習成果が明示されている。 【学科】 ・生命科学部のディプロマ・ポリシー には、修得すべき学習成果が明示されている。	A		

2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部において、カリキュラム・ポリシーを定めている。 	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 生命科学部 教育目標 http://www.toyo.ac.jp/lsc/faculty_j.html 『2012履修要覧』 p.3 『学生生活ハンドブック』 p.9 生命科学部 ディプロマ・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 生命科学部 教育目標 http://www.toyo.ac.jp/lsc/dlsc/index.html 『2012履修要覧』 p.59 『学生生活ハンドブック』 p.10 生命科学部 ディプロマ・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標およびディプロマ・ポリシーと整合している。 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合している。 	A		
	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数の設定が行われているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 各学科 教育課程表 『2012履修要覧』 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 生命科学部 教育課程表 『2012履修要覧』 p.26-27、34-35、40-41 	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科では、それぞれのカリキュラム・ポリシーに基づいた、特色ある科目を用意している。 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部では、それぞれのカリキュラム・ポリシーに基づいた、特色ある科目を用意している。 	A		
3) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にあり、かつ、その周知方法が有効であるか。	<p>【学部、学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部および各学科のディプロマ・ポリシーと各学科のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。また、新学期のガイダンス等で教職員・学生に周知するようにしている。 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部のディプロマ・ポリシーと生命科学部のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。また、新学期のガイダンス等で教職員・学生に周知するようにしている。 	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	<p>【学部、学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部および各学科のディプロマ・ポリシーと各学科のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命科学部のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。 	A		

4) 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。		【学部】 ・教育目標、ディプロマ・ポリシーおよび各学科のカリキュラム・ポリシーの適切性について、生命科学部教授会や学科会議等で検証を行っている。 【学科】 ・教育目標、ディプロマ・ポリシー およびカリキュラム・ポリシーの適切性について、生命科学部学科会議等で検証を行っている。	A		
--	--	----	---	--	---	---	--	--

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	【学部・学科】 ・『2012授業時間割表』	【学部・学科】 ・必修科目、選択必修科目は、一部をのぞきすべて開講している。 ・担当教員が急逝されたため開講できなかった科目があるが、今年度については、担当の変更、次年度については新規教員の採用で対応する。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・生命科学科 教育課程表 ・生命科学科 科目展開チャート ・『2012履修要覧』 p.20	【学部・学科】 ・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を設定しているが、科目間の授業内容に関する連携が弱い部分も見受けられる。	B		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	【学部】 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・『2012履修要覧』 p.20	【学部・学科】 ・『履修要覧』において、「一般教養的科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、学生に向けて説明している。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・生命科学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・生命科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.26-27、34-35、40-41	【学部・学科】 ・教育課程は、カリキュラム・ポリシー に従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 ・該当科目 シラバス 【学科】 ・生命科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.26-27、34-35、40-41 ・該当科目 シラバス	【学部・学科】 ・「学士力」に対応するために、「1.知識・理解」の育成については、科目群「一般教養的教育科目」の「言語と文化」「文化人類学入門」などの授業科目で対応している。また、「2.汎用的技能」の育成については、科目群「一般教養的教育科目」の「情報処理基礎」「情報処理演習」などの授業科目で対応している。「3.態度・志向性」の育成については、科目群「一般教養的教育科目」の「哲学入門」「生命倫理」「科学技術論」や各学科の科目群「専攻領域」の授業科目で対応している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 ・該当科目 シラバス 【学科】 ・生命科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.26-27、34-35、40-41 ・該当科目 シラバス	【学部・学科】 ・1年次に「ライフサイエンス基礎I」「ライフサイエンス基礎II」を初年次教育として配置し、2年次および3年次に「生命科学英語I、II」を専門教育への導入教育と位置づけて、少人数で授業を実施している。 ・大学での専門教育への導入教育として、科目群「専攻領域」に「基礎化学」「基礎生物学」などを1年次に必修科目として配置している。 ・高大連携としては、高校での模擬授業への教員の派遣を行っているほか、高校生理科実験の開催やJSTの支援による高大連携事業を計画している。	A		

「教育方法」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43 教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 教育目標 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/faculty_j.html ・『2012履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 ・各学科 教育課程表 ・該当科目 シラバス 【学科】 ・生命科学部 教育目標 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/faculty_j.html ・『2012履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 ・生命科学部 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.26-27、34-35、40-41 ・該当科目 シラバス	【学部・学科】 ・双方向型の授業が望ましい分野・領域については、「情報処理演習」等の演習科目を、技術修得が必要な領域・分野については、「生物学実験」「化学実験」「物理実験」各学科の設置する実験等の実習・実技科目を適宜、配置している。	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	44 単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学学生等も含む)。	【学部】 『2012履修要覧』 【学科】 『2012履修要覧』 p.22	【学部・学科】 ・セメスター 制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスターにつき24単位(1年間で48単位)に定めている。	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45 学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・生命科学部 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.26-27、34-35、40-41	【学部・学科】 ・学生が主体的な学習態度を身につけられるように、「生命科学英語I」「生命科学英語II」では、10~20名程度の少人数グループに分かれての講義を実施し、4年次で、少人数によるゼミ(各学科が設置する輪講)を必修としている。 ・講義科目の教員一人当たりの学生数を整合性のある数に調整し、円滑な授業ができるよう配慮している。	A		
		46 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・生命科学部 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・生命科学部 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.26-27、34-35、40-41	【学部・学科】 ・教育方法は、各学科のカリキュラム・ポリシー に従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47 シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	【学部】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・『2012履修要覧』 p.138-214	【学部・学科】 ・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、各科目の講義の目的・内容、到達目標、講義スケジュールを具体的に記載している。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48 授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	【学部・学科】 ・「授業評価アンケート結果(全体集計)」	【学部・学科】 ・「授業評価アンケート」における「シラバスのとおり授業内容が進んでいるか」の回答は、肯定的な回答が多く、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。 ・「授業評価アンケート」における「シラバスは履修選択に役立った」の回答は、肯定的な回答が多く、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。	A		

3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	【学部】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・「2012履修要覧」 【学科】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・「2012履修要覧」 p.138-214	【学部・学科】 ・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、各科目の「成績評価の方法・基準」を明示している。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・「2012履修要覧」 【学科】 ・生命科学科 教育課程表 ・「2012履修要覧」 p.26-27、34-35、40-41	【学部・学科】 ・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、 講義科目：半期15周で2単位 演習科目：半期15周で2単位 実験・実習科目：半期15周で1単位 卒業論文：4単位 を原則として、適切に設定している。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	【学部・学科】 ・「板倉キャンパス学年暦 2012」	【学部・学科】 ・全ての科目について、各学期15回の授業と定期試験を設定している。	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	【学部・学科】 ・「東洋大学学則」第43条 ・「東洋大学学生の留学に関する規程」第10条 ・「海外留学制度における単位の認定」 ・「2012履修要覧」 p.114 ・「群馬県内大学単位互換科目」 ・「2012履修要覧」 p.73	【学部・学科】 ・海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で習得した単位の認定、入学前の学習の単位認定は、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っている。 ・単位の認定の適切性について、今後議論していく。	B		
4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 FD委員会規程」	【学部・学科】 ・生命科学部FD委員会が、年に2回程度、委員会を開催し、学部FDについての研究を行うとともに、学部FD研修会等を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的に実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 FD活動報告書」	【学部・学科】 ・日本私立大学連盟主催のFD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に新任教員を派遣し、学部内で報告会を実施している。 ・生命科学部FD委員会が、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	【学部・学科】 ・「授業評価アンケートについて」 ・「授業評価アンケート結果」 ・「授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について」	【学部・学科】 ・授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員にはアンケート結果に対する改善方策を提出してもらい、自由に閲覧できるようにしている。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	東洋大学卒業生アンケート	【学部・学科】 H23年度より大学教育および運営に反映させることを目的として、教育内容・学生生活に関する満足度や学習成果などについてのアンケートを全学的に実施している。	A		
2) 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	【学部】 ・「2012履修要覧」 【学科】 ・「2012履修要覧」 p.29-30	【学部・学科】 ・「履修要覧」に卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンスおよび進級時のガイダンス時に繰り返し周知している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	【学部】 ・生命科学部・各学科 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・各学科 卒業要件 ・「2011履修要覧」 【学科】 ・生命科学科 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・生命科学科 卒業要件 ・「2012履修要覧」 p.29	【学部・学科】 ・卒業要件は、おおむねディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・生命科学科 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部において、アドミッション・ポリシーを定めている。 【学科】 ・生命科学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・生命科学科 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部のアドミッション・ポリシーは、学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。 【学部】 ・生命科学科のアドミッション・ポリシーは、学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	A		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	【学部】 ・『入学試験要項 2013』 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・『入学試験要項 2013』 ・生命科学科 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部のアドミッション・ポリシーは、全学の『入学試験要項』およびホームページにおいて公開している。 【学科】 ・生命科学科のアドミッション・ポリシーは、全学の『入学試験要項』およびホームページにおいて公開している。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	【学部・学科】 ・『入試システムガイド 2013』	【学部・学科】 ・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試システムガイド』にて受験生に明示している。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	【学部・学科】 ・『入試システムガイド 2013』	【学部・学科】 ・一般入試では、『広範囲の学問領域に対して柔軟かつ広角的な思考力を有する人材を受け入れる』という方針に則り、理系・文系にとらわれない形での複数の選抜試験を実施し、また、推進入試では、学習意欲ならびに明確な目的意識をもち、コミュニケーション能力や倫理観を有する人物を採用するという方針に則り、小論文および面接を課す試験方法を設定している。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	【学部・学科】 ・『全学入試委員会規程』 ・『生命科学部 教授会規程』	【学部・学科】 ・全学入試委員会、生命科学部教授会、生命科学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施しているが、生命科学部入試委員会規定は制定されておらず、必要に応じ、入試委員会で議論している。	B		
		65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	【学部・学科】 ・『大学基礎データ 表4』	【学部・学科】 ・H24年度入試においては、各学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	A		
	66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・『入試システムガイド 2013』 【学科】 ・生命科学科 アドミッション・ポリシー ・『入試システムガイド 2013』	【学部・学科】 ・入試方式や募集人員、選考方法は、おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定している。	A			

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部】 ・生命科学部における過去5年の入学者定員に対する入学者比率の平均は1.23であり、1.19を超えているが前年度(1.27)に比べてやや改善した。 【学科】 ・生命科学部における、過去5年の入学者定員に対する入学者比率は以下の通りであり、平均は1.23である。 2012年度 1.20 2011年度 1.19 2010年度 1.25 2009年度 1.19 2008年度 1.34	B		
		68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部】 ・生命科学部における収容定員に対する在籍学生数比率は、1.23であり、1.20をやや超えている。 【学科】 ・生命科学部における収容定員に対する在籍学生数比率は、1.23であり、1.20をやや超えている。	B		
		69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか、また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部・学科】 ・生命科学部および生命科学部では他大学、他学科からの編入学を認めていない。	A		
	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 入試委員会議事録」 ・「生命科学部 教授会議事録」	【学部・学科】 ・生命科学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学者数策定の分析を行い、生命科学部教授会に報告し、議論している。	A			
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。		【学部・学科】 ・アドミッション・ポリシーの適切性については、過去、定期的な検証を行ってこなかったが、新しいカリキュラム改訂の度に検証を行うべく、現在準備中である。	B		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	【学部・学科】 ・「全学 入試委員会議事録」 ・「生命科学部 入試委員会議事録」	【学部・学科】 ・全学入試委員会および生命科学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証・検討を行っている。	A		

(6) 学生支援

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
2) 学生への修学支援は適切に行われているか	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性	73	原級者、休・退学者のデータを教授会等の会議で教職員に周知し、情報の共有化を図るとともに、理由把握等に努め、適切な指導、支援を行っているか。	・「生命科学部 教授会議事録」	・単位僅少者に対して担任教員が面接を行い、早期の指導・支援を行うことにより、原級、休・退学の減少に努めている。 ・原級、休・退学に関しては、担任教員による面接を実施した後に、教授会にて事由の報告・承認を行っている。集計や理由の分析等は実施していない。 ・医務室・学生相談室・学習支援室と可能な限り情報共有し、連携して問題の解決を行っている。	A		
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施	74	教員および学生に実態調査を行うなどして、必要な補習・補充教育を適切に提供するとともに、その効果についての検証を行っているか。	・各学科 教育課程表 ・「2012履修要覧」 ・生命科学部パンフレット p.24	・補習、補充教育については、「ライフサイエンス基礎I・II」を用意するとともに「学習支援室」を設置して、高等学校までの学習が十分でない学生への対応を行っている。 ・上記取り組みに関する実態調査や、効果の検証等は実施していない。	B		
4) 学生の進路支援は適切に行われているか	進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施	75	正課教育において、学生が卒業後、社会的・職業的自立を図るための能力を育成しているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・「2012履修要覧」 ・該当科目 シラバス 【学科】 ・生命科学科 教育課程表 ・「2012履修要覧」 p.26-27、34-35、40-41 ・該当科目 シラバス	【学部・学科】 ・教養科目「キャリアデザイン」を配置して、学生の社会人としての基礎力を養成している。 ・「実務研修」を配置して、講義と実社会との関連を理解させるとともに、就業先での自立がスムーズに行える様に務めている。 【学科】 ・生命科学科として「学外実習」を配置、また、正課ではないが「研究所見学プログラム」(年3回)を実施して、職業としての研究のイメージを具体的に捉えることができるよう支援している。	A		

(7) 教育研究等環境

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備	76 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じて、講義室の規模、実験・実習室の設備、実習室の座席数などが整備されているか。	・『2012履修要覧』 p.348-351 ・『学生生活ハンドブック』 p.104-115 ・板倉キャンパス設備一覧 http://www.toyo.ac.jp/room/facilityList_j/c/itakura/b/0/	・おおむね施設・設備は整備されているが、生命科学部における教育課程の関係上、学生実習室や、PC教室が十分とはいえない。	B		
	ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備	77 TA、SA等の人的支援が行われているか。	・『東洋大学教育補助員採用内規』 ・『平成24年度 TA・PRA一覧表』	・TA、SAについては、『教育補助員採用内規』に従い、毎年40名程度が採用されているが、大学院生の減少により、TAについては必要数の確保が困難になっている。	B		
	教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保	78 専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給しているか。	・『生命科学部 教授会議事録』	・一般研究費として専任教員1人につき、実験系教授69.4万円、実験系准教授64.1万円、非実験系教員53.2万円、契約制英語教員および助教28万円の研究費が支給されている。	A		
		79 専任教員に対する研究室を整備しているか。	・『2012履修要覧』 p.304-329	・専任教員全員に個人研究室が配分されている。	A		
		80 研究専念時間の設定など、教員の研究機会を保证しているか。	・『平成24年度時間割編成並びに授業運営について』	・時間割編成時に教務部長名で、『専任教員は週3日以上出校し、学部授業を週5コマ以上担当することを原則とします』としており、おおむね、授業日以外の1~2日を研究に充てることができているが、学内業務等の増加のため、完全に保証されているとはいえない。	A		
5) 研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか	研究倫理に関する学内規程の整備状況	81 研究倫理に関する学内規程を整備するとともに、研究倫理に関する研修会等を実施するなど、研究倫理を浸透させるための措置を行っているか	・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程』 ・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会細則』 ・『魚類および両生類実験における指針』 ・『魚類および両生類実験取扱要領』	・平成21年に生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程および細則を整備し、該当する研究の審査を行っている。 ・研究倫理に関する研修会等については実施していない。 ・平成22年に魚類および両生類実験における指針および取扱要領を整備し、該当する研究は申請手続きをする必要がある。	A		
	研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性	82 研究倫理に関する審査機関の設置し、適切に運営しているか。	・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程』 ・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会細則』	・生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程および細則に基づき審査委員会を設置し適切に運営している	A		

(8) 社会連携・社会貢献

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか	産・学・官等との連携の方針の明示	83 学部の目的を踏まえて、産・学・官等との連携に関する方針を定めているか。	・LiFE研究会会則	・平成21年度に産官学・地域連携事業推進を目的とした「産官学連携推進会議」を設置した。 ・平成22年度に産学官連携ネットワークを構築することを目的としてLiFE研究会を設置し、毎年総会や運営委員会を開催するとともに、分科会を設置して、継続的に講演会や交流会を実施している。	S		
	地域社会・国際社会への協力量針の明示	84 学部の目的・目標を踏まえて、地域社会・国際社会への協力量針を定めているか。		・地域社会・国際社会への協力量針は、生命科学部では定めていない。	C	地域社会・国際社会への協力量針について学部内で継続的に議論を進める。	未定
2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動	85 学部の教育・研究の成果を、社会へのサービス活動に還元しているか。	・地域連携サイエンスカフェ実施細則(館林市・板倉町・東洋大学間の覚書)	・「地域連携サイエンスカフェ」、「生命科学部シンポジウム」を開催し、学部の教育・研究の成果を、地域へのサービス活動に還元している。	A		
	学外組織との連携協力による教育研究の推進	86 学部の教育・研究の推進のために、他大学や学外の研究所や組織等との連携・協力をしているか。	・生命科学部・農業技術センター包括協定	・共同研究、研究成果普及および人材育成を目的として、群馬県立農業技術センターと包括協定を締結している。	A		
	地域交流・国際交流事業への積極的参加	87 地域交流・国際交流事業に積極的に取り組んでいるか。	・地域活性化研究所「研究所だより」	・地域活性化研究所を設置し、地域交流事業・国際交流事業を展開している。 ・125周年記念国際シンポジウムの開催を準備中。	A		

(10) 内部質保証

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか	自己点検・評価の実施と結果の公表	88	自己点検・評価を、明文化された規程に基づき、定期的実施しているか。	・H23年度自己点検・評価 ・東洋大学 授業評価アンケート(生命科学部FD委員会)	・H23年度より定期的に自己点検・評価を実施している。 ・授業については、学期ごとに授業評価アンケートを実施している。 ・「生命科学部 自己点検・評価委員会規程」は規定されていない。	B		
		89	自己点検・評価の結果を、刊行物としての配布、ホームページへの掲載等によって、当該大学以外の者がその内容を知りうる状態になっているか。		・自己点検・評価の結果は、現時点では公表していない。 ・授業評価アンケートの結果をホームページに掲載する準備を進めている。	C	平成24年度の授業評価アンケートの結果をホームページに掲載する。	平成24年度末まで
2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか	内部質保証の方針と手続きの明確化	90	自己点検・評価の結果を、学部の改革・改善や学部の企画・運営につなげるための方針と手続きが明確にされているか。		・自己点検・評価の結果を、生命科学部教授会において報告しているが、学部の改革・改善や学部の企画・運営につなげるための方針と手続きについては明確にしている。	C	自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための方針と手続きについて、学部内で継続的に議論を進める。	未定
	内部質保証を掌る組織の整備	91	自己点検・評価結果を、改革・改善や学部の企画・運営につなげるための委員会等が整備されているか。		・現段階では、自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための委員会等は整備されていないが、生命科学部運営委員会や生命科学部教授会において、折にふれ議論している。	C	自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための委員会の整備について、学部内で継続的に議論を進める。	未定
	自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムの確立	92	自己点検・評価の結果を、改革・改善や学部の企画・運営につなげる連携システムが確立されているか。		・現段階では、自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や学部の企画・運営につなげる連携システムは確立されていない。	C	自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための連携システムについて、学部内で継続的に議論を進める。	未定
3) 内部質保証システムを適切に機能させているか	組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実	93	学部、学科、教員の各レベルで自己点検・評価活動が行われているか。	・H23年度自己点検・評価 ・生命科学部 授業改善レポート	・H23年度より定期的に学部・学科の自己点検・評価を実施している。 ・授業については、毎年授業評価アンケートを実施し、担当科目について、授業改善レポートを作成している。	A		
	教育研究活動のデータベース化の推進	94	「東洋大学研究者情報データベース」に、学部の専任教員の研究業績が適切に構築されている。	・東洋大学研究者情報データベース ・平成24年度研究者情報データベース更新状況	・専任教員の「東洋大学研究者情報データベース」への登録率は91.3%であり、H24年に56%の教員がデータの更新を行なっている。	B		
	学外者の意見の反映	95	学外者の意見を聴取するなど、内部質保証の取り組みの客観性・妥当性を高めるための工夫を行っているか。		・自己点検・評価において、学外者の意見を積極的に聴取するための工夫は行っていない。	C	自己点検・評価の結果について学外者の意見を聴取する方策について、議論を進める。	未定
	文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項への対応	96	文部科学省の設置認可・履行状況報告の際の留意事項、大学基準協会の認証評価の際の指摘事項について、改善のための具体的な取り組みを行っているか。	・「改善報告書」(H23.7大学基準協会提出)	・文部科学省関連の留意事項はなし。 ・H19の認証評価時の指摘事項については、H19～H23にかけて改善に向けた取り組みを行い、指摘を受けた2項目についてはすでに改善に向けた取り組みを行い、改善済み。	A		

(11)独自の評価項目 及び 学生からの意見等

評価項目	評価の視点		判断基準および 判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評定	改善方策	改善時期
		97						
		98						
		99						
		100						
		101						
		102						
		103						
		104						
		105						

平成24(2012)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 生命科学部 応用生物科学科

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	1 学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	【学部・学科】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	【学部】 ・生命科学部において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。 【学科】 ・応用生物科学科では、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	S		
		2 学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	【学部】 ・生命科学部の目的 【学科】 ・応用生物科学科の目的	【学部】 ・生命科学部の目的は、教育基本法の「第7条 および学校教育法の「第83条」と整合しており、高等教育機関として適切であるといえる。 【学科】 ・応用生物科学科の目的は、教育基本法第7条の「高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」と整合しており、高等教育機関として適切であるといえる。	S		
		3 学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	【学部・学科】 ・「建学の精神」、「大学の理念」 ・生命科学部の目的 ・応用生物科学科の目的	【学部】 ・生命科学部の目的は、本学の三つの建学の精神である「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」、「知徳兼全」を根本としている。また、生命科学部の目指すべき方向性や達成すべき成果をホームページ、大学・学部パンフレットによって明らかにしている。 【学科】 ・応用生物科学科の目的は、本学の三つの建学の精神である「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」、「知徳兼全」を根本としている。また、応用生物科学科の目指すべき方向性や達成すべき成果をホームページ、大学・学部パンフレットによって明らかにしている。	S		
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4 学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	【学部・学科】 ・東洋大学研究者情報データベース	【学部】 ・生命科学部の目的は、これまでの教育・研究実績、教員編成、設備整備・拡充の観点からみて、適切であるといえる。 【学科】 ・1997年度に開設した生命科学部生命科学科での教育・研究活動を基に、これを発展させる形で応用生物科学科の目的を設定しており、様々な観点から見て、適切であると言える。	S		
	個性化への対応	5 学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	【学部】 ・生命科学部の目的 ・「2012履修要覧」 p.3 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/indexj.html 【学科】 ・応用生物科学科の目的 ・「2012履修要覧」 p.45 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/indexj.html	【学部】 ・生命科学部の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「世界的研究・教育拠点」、「幅広い職業人養成」と「社会貢献機能(地域貢献,産学官連携,国際交流等)」の機能を踏まえて、生命科学部の個性・特色を打ち出し設定されている。 【学科】 ・応用生物科学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「幅広い職業人養成」と「社会貢献機能(地域貢献,産学官連携,国際交流等)」の機能を踏まえて、学科の個性・特色を打ち出すべく設定されている。	S		

2)大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	【学部】 ・『2012履修要覧』 p.3 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/indexj.html 【学科】 ・『2012履修要覧』 p.45 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/indexj.html	【学部】 ・生命科学部の目的を、『履修要覧』に記載し、学生および教職員に配付している。 ・生命科学部の目的、教育目標は、ホームページに記載している。 【学科】 ・応用生物科学科の目的を、『履修要覧』に記載して、学生および教職員に配付している。 ・応用生物科学科の目的、教育目標は、ホームページに記載している。	S		
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	・新入生アンケート集計表	【学部・学科】 ・生命科学部の目的の周知方法の有効性については、新入生に対して毎年7月にアンケート調査を行い、その結果を基に改善方法等の調整を図っている。	B		
	社会への公表方法	8	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	【学部・学科】 ・『2013 MANABI BOOK TOYO UNIVERSITY』 p.50 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/indexj.html ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/indexj.html	【学部・学科】 ・大学、学部パンフレットでは、生命科学部の「人材の養成に関する目的」を直接記載はしていないが、目的を、より分かりやすい形で記載している。 ・生命科学部の目的は、ホームページに記載している。	A		
3)大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。		【学部・学科】 ・生命科学部・応用生物科学科の目的の適切性については、カリキュラム改訂時に議論し、適切性を検証している。	A		

(2)教育研究組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)大学の学部・学科・研究科・専攻及び附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか	教育研究組織の編成原理	10	学部の目的を実現するための、教育研究組織の編成原理を明確にしているか。	・生命科学部の目的 ・『2012履修要覧』 p.3	・生命科学部では、教育研究組織の編成原理は、教務委員会および教授会で議論し、調整を図っている。	A		
	理念・目的との適合性	11	教育研究組織は、学部の目的を実現する上で適切かつ有効に機能する組織となっているか。	・生命科学部の目的 ・『2012履修要覧』 p.3 ・組織図	・生命科学部の目的、目標である「生命科学を教育研究することにより、生命の総合的理解の上に立って、地球社会の発展に貢献する創造的思考能力、かつ倫理観を合わせもった人材の育成」を実現するために、学問領域を「生命」「環境」「食」の3領域に分けて、生命科学科、応用生物科学科、食環境科学科の3学科体制で教育研究組織を編成している。	A		
	学術の進展や社会の要請との適合性	12	学術の進展や社会的な要請を考慮した教育研究組織となっているか。	・生命科学部の目的 ・『2012履修要覧』 p.3	・生命科学部の教育研究組織は、生命科学 という学術の進展や、再生医療、環境修復、食の安全・安心 という社会的な要請に対応するために適切である。	A		
2)教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか		13	教育研究組織の適切性を、定期的に検証しているか。	・『生命科学部 教授会議事録』	・生命科学部教授会において、年度毎に事業計画・課題を作成し、この中で入学者の質、地域教育・地域事業との連携を考慮した教育研究体制の整備に努め、定期的に組織の検討を行っている。	A		

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期	
1) 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14 教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査委員会規程」 ・「生命科学部教員資格審査委員会細則」 ・「生命科学部教員資格審査基準細則」 ・「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」	・「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、「生命科学部教員資格審査委員会細則」、「生命科学部教員資格審査基準細則」、「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」に定め、生命科学部教授会を通して生命科学部の全専任教員に周知している。	S			
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15 組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・「生命科学部 教務委員会規程」	・生命科学部教務委員会が、生命科学部における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。	S			
	教員構成の明確化	16 学科の目的を実現するために、教員組織の編制方針を明確にしているか。			【学部】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていないが、新規教員採用時には資格審査委員会、専任教員採用委員会で議論し、教員組織に偏りが出ないように配慮し調整を図っている。 【学科】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていない。	B		
		17 学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。			【学部】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていないが、必要に応じて教務委員会、教授会、各学科で議論し調整を図っている。 【学科】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていない。	B		
2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	18 学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	【学部、学科】 ・「大学基礎データ」表2	【学部】 ・生命科学部に割り当てられた専任教員数を充足している。 【学科】 ・応用生物科学学科に割り当てられた専任教員数を充足している。	S			
		19 学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	【学部、学科】 ・「大学基礎データ」表2	【学部】 ・生命科学部では、専任教員の半数以上は教授(64%)となっている。 【学科】 ・応用生物科学学科の専任教員の半数は教授となっている。	S			
		20 学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・「大学基礎データ」表A	・生命科学部教員の各年代の比率は、 ～30歳:0% 31～40歳:22.7% 41～50歳:22.7% 51～60歳:29.5% 61～ 歳:25.0% となっており、いずれも35%を超過していない。	A			
		21 教員組織の編成方針に則って教員組織が編制されているか。	【学部、学科】 ・「生命科学部 教授会議事録」	【学部・学科】 ・生命科学部における教員組織の編成については、カリキュラム改訂時に、生命科学部教務委員会、生命科学部教授会および各学科で議論され、教育理念、教育目標に沿った教員組織が編成されるよう調整を図っている。	A			
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22 専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「生命科学部教員資格審査基準細則」	・専任・非常勤を問わず、新規の科目を担当する際には、生命科学部教員資格審査委員会に「科目審査」として諮り審議している。	S			

3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「東洋大学教員資格審査委員会規程」 ・「生命科学部教員資格審査委員会細則」 ・「生命科学部教員資格審査基準細則」 ・「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、「生命科学部教員資格審査委員会細則」、「生命科学部教員資格審査基準細則」、「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」に定め、生命科学部教授会を通して生命科学部の全専任教員に周知している。 	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定めたルールが適切に守られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生命科学部 教授会議事録」 ・「生命科学部 教員資格審査報告書」 	・教員の採用、昇格は、規程に従って厳格に行われている。	S		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・「生命科学部報告書:生命科学」 ・「生命科学部 教授会議事録」 ・生命科学部シンポジウムの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部の自己点検・活動の一環として、各教員の研究業績、教育実績、社会貢献活動等の一覧を、「生命科学部報告書:生命科学」に記載している。 ・日本私立大学連盟主催のFD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に新任教員を派遣し、学部内で報告会を実施している。 ・年2回、生命科学部シンポジウムを開催し、教員の研究、社会貢献活動を公表している。 	S		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。		・教員評価制度は、全学的に検討する方向で議論がなされており、これらを見据えて、学部として検討する必要があり、現段階では、実施に至っていない。	C	・教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施する必要がある。各活動の評価基準など課題も多く、継続的に検討を行っている。	実施時期未定

(4)教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	【学部】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『2012履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 【学科】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『2012履修要覧』 p.45 ・『学生生活ハンドブック』 p.10	【学部】 ・生命科学部において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。 【学科】 ・応用生物科学科において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・応用生物科学科 ディプロマ・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部において、ディプロマ・ポリシー を定めている。 【学科】 ・応用生物科学科において、ディプロマ・ポリシー を定めている。	A		
		29 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	【学部】 ・生命科学部 教育目標 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/faculty_j.html ・『2012履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・応用生物科学科 教育目標 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/index.html ・『2012履修要覧』 p.45 ・『学生生活ハンドブック』 p.10 ・応用生物科学科 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部の教育目標とディプロマ・ポリシー は整合している。 【学科】 ・応用生物科学科の教育目標とディプロマ・ポリシー は整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	【学部】 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・応用生物科学科 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部のディプロマ・ポリシー には、修得すべき学習成果が明示されている。 【学科】 ・応用生物科学科のディプロマ・ポリシー には、修得すべき学習成果が明示されている。	A		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	<p>【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html</p> <p>【学科】 ・応用生物科学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html</p>	<p>【学部】 ・各学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。</p> <p>【学科】 ・応用生物科学科において、カリキュラム・ポリシーを定めている。</p>	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	<p>【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・生命科学部 教育目標 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/faculty_j.html ・『2012履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html</p> <p>【学科】 ・応用生物科学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・応用生物科学科 教育目標 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/index.html ・『2012履修要覧』 p.45 ・『学生生活ハンドブック』 p.10 ・応用生物科学科 ディプロマ・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html</p>	<p>【学部】 ・各学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標およびディプロマ・ポリシーと整合している。</p> <p>【学科】 ・応用生物科学科のカリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合している。</p>	A		
	33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	<p>【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』</p> <p>【学科】 ・応用生物科学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.54-55</p>	<p>【学部】 ・各学科では、それぞれのカリキュラム・ポリシーに基づいた、特色ある科目を用意している。</p> <p>【学科】 ・応用生物科学科では、カリキュラム・ポリシーの「実務的スペシャリスト・ベンチャー的技術者を育成」に対応して、科目「知的財産権所有法」「技術倫理」を用意し、これらを選択必修としている。</p>	A			
3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にあり、かつ、その周知方法が有効であるか。	<p>【学部、学科】 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html</p>	<p>【学部】 ・生命科学部および各学科のディプロマ・ポリシーと各学科のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。また、新学期のガイダンス等で教職員・学生に周知するようにしている。</p> <p>【学科】 ・応用生物科学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。また、新学期のガイダンス等で教職員・学生に周知するようにしている。</p>	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	<p>【学部、学科】 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html</p>	<p>【学部】 ・生命科学部および各学科のディプロマ・ポリシーと各学科のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。</p> <p>【学科】 ・応用生物科学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。</p>	A		

4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。		【学部】 ・教育目標、ディプロマ・ポリシーおよび各学科のカリキュラム・ポリシーの適切性について、生命科学部教授会や学科会議等で検証を行っている。 【学科】 ・教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性について、学科会議等で検証を行っている。	A		
---	--	----	---	--	---	---	--	--

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37	教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	【学部・学科】 ・『2012授業時間割表』	【学部・学科】 ・必修科目、選択必修科目はすべて開講している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38	教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 教育課程表 ・応用生物科学科 科目展開チャート ・『2012履修要覧』 p.48	【学部】 ・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を設定しているが、科目間の授業内容に関する連携が弱い部分も見受けられる。 【学科】 ・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を設定しているが、科目間の授業内容に関する連携が弱い。	B		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39	教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	【学部】 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・『2012履修要覧』 p.48	【学部・学科】 ・『履修要覧』において、「一般教養的科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、学生に説明している。	A		
		40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 カリキュラム・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.54-55	【学部・学科】 ・教育課程は、カリキュラム・ポリシー に従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A		
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41	中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 ・該当科目 シラバス 【学科】 ・応用生物科学科 教育課程表 ・該当科目 シラバス	【学部・学科】 ・「学士力」に対応するために、「1.知識・理解」の育成については、科目群「一般教養的教育科目」の「言語と文化」「文化人類学入門」などの授業科目で対応している。また、「2.汎用的技能」の育成については、科目群「一般教養的教育科目」の「情報処理基礎」「情報処理演習」などの授業科目で対応している。「3.態度・志向性」の育成については、科目群「一般教養的教育科目」の「哲学入門」「生命倫理」「科学技術論」や各学科の科目群「専攻領域」の授業科目で対応している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42	専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 ・該当科目シラバス 【学科】 ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.54-55 ・該当科目シラバス	【学部・学科】 ・1年次に「ライフサイエンス基礎I」「ライフサイエンス基礎II」を初年次教育として配置し、2年次および3年次に「生命科学英語I、II」を専門教育への導入教育と位置づけて、少人数で授業を実施している。 ・大学での専門教育への導入教育として、科目群「専攻領域」に「基礎化学」「基礎生物学」などを1年次に必修科目として配置している。 ・高大連携としては、高校での模擬授業への教員の派遣を行っているほか、高校生理工科実験の開催やJSTの支援による高大連携事業を計画している。	A		

「教育方法」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43 教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	<p>【学部】 ・生命科学部 教育目標 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/faculty_j.html ・『2012履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 ・各学科 教育課程表 ・該当科目 シラバス</p> <p>【学科】 ・応用生物科学科 教育目標 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/index.html ・『2012履修要覧』 p.45 ・『学生生活ハンドブック』 p.10 ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.54-55 ・該当科目シラバス</p>	<p>【学部・学科】 ・双方向型の授業が望ましい分野・領域については、「情報処理演習」等の演習科目を、技術修得が必要な領域・分野については、「生物学実験」「化学実験」「物理実験」および各学科の設置する実験等の実習・実技科目を適宜、配置している。</p>	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	44 単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	<p>【学部】 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・『2012履修要覧』 p.50</p>	<p>【学部・学科】 ・セメスター 制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスター につき24単位(1年間で48単位)に定めている。</p>	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45 学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	<p>【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.54-55</p>	<p>【学部・学科】 ・学生が主体的な学習態度を身につけられるように、「生命科学英語I」「生命科学英語II」では、10～20名程度の少人数グループに分かれての講義を実施し、4年次で、少人数によるゼミ(各学科が設置する輪講)を必修としている。 ・講義科目の教員一人当たりの学生数を整合性のある数に調整し、円滑な授業ができるよう配慮している。</p>	A		
		46 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	<p>【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.54-55</p>	<p>【学部・学科】 ・教育方法は、各学科のカリキュラム・ポリシー に従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。</p>	A		

2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	【学部】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・『2012履修要覧』 p.138-167および215-254	【学部・学科】 ・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、各科目の講義の目的・内容、到達目標、講義スケジュールを具体的に記載している。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	【学部・学科】 ・「授業評価アンケート結果(全体集計)」	【学部・学科】 ・「授業評価アンケート」における「シラバスのとおり授業内容が進んでいるか」の回答は、肯定的な回答が多く、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。 ・「授業評価アンケート」における「シラバスは履修選択に役立った」の回答は、肯定的な回答が多く、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。	A		
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	【学部】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・『2012履修要覧』 p.138-167および215-254	【学部・学科】 ・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、各科目の「成績評価の方法・基準」を明示している。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.54-55	【学部・学科】 ・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、 講義科目:半期15周で2単位 演習科目:半期15周で2単位 実験・実習科目:半期15周で1単位 卒業論文:4単位 を原則として、適切に設定している。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	【学部・学科】 ・「板倉キャンパス学年暦 2012」	【学部・学科】 ・全ての科目について、各学期15回の授業と定期試験を設定している。	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	【学部・学科】 ・「東洋大学学則」第43条 ・「東洋大学学生の留学に関する規程」第10条 ・「海外留学制度における単位の認定」 ・『2012履修要覧』 p.114 ・「群馬県内大学単位互換科目」 ・『2012履修要覧』 p.73	【学部・学科】 ・海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で習得した単位の認定、入学前の学習の単位認定は、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っている。	B		
4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 FD委員会規程」	【学部・学科】 ・生命科学部FD委員会が、年に2回程度、委員会を開催し、学部FDについての研究を行うとともに、学部FD研修会等を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 FD活動報告書」	【学部・学科】 ・日本私立大学連盟主催のFD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に新任教員を派遣し、学部内で報告会を実施している。 ・生命科学部FD委員会が、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	【学部・学科】 ・『授業評価アンケートについて』 ・『授業評価アンケート結果』 ・『授業評価アンケート結果に対する改善方策の提出について』	【学部・学科】 ・授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員にはアンケート結果に対する改善方策を提出してもらい、自由に閲覧できるようにしている。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	東洋大学卒業生アンケート	【学部・学科】 H23年度より大学教育および運営に反映させることを目的として、教育内容・学生生活に関する満足度や学習成果などについてのアンケートを全学的に実施している。	A		
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	【学部】 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・『2012履修要覧』 p.49, 50	【学部・学科】 ・『履修要覧』に卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンスおよび進級時のガイダンス時に繰り返し周知している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	【学部】 ・生命科学部・各学科 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・各学科 卒業要件 ・『2011履修要覧』 【学科】 ・応用生物科学科 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・応用生物科学科 卒業要件 ・『2012履修要覧』 p.49	【学部・学科】 ・卒業要件は、ディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・応用生物科学科 アドミッション・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部において、アドミッション・ポリシーを定めている。 【学科】 ・応用生物科学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・応用生物科学科 アドミッション・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部のアドミッション・ポリシーは、学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。 【学科】 ・応用生物科学科のアドミッション・ポリシーは、学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	A		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	【学部】 ・『入学試験要項 2013』 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・『入学試験要項 2013』 ・応用生物科学科 アドミッション・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部のアドミッション・ポリシーは、全学の『入学試験要項』およびホームページにおいて公開している。 【学科】 ・応用生物科学科のアドミッション・ポリシーは、全学の『入学試験要項』およびホームページにおいて公開している。	A		

2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62	受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	【学部・学科】 ・『入試システムガイド 2013』	【学部・学科】 ・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試システムガイド』にて受験生に明示している。	A		
		63	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	【学部・学科】 ・『入試システムガイド 2013』	【学部・学科】 ・一般入試では、「広範囲の学問領域に対して柔軟かつ広角的な思考力を有する人材を受け入れる」という方針に則り、理系・文系にとられない形での複数の選抜試験を実施し、また、推薦入試では、学習意欲ならびに明確な目的意識をもち、コミュニケーション能力や倫理観を有する人物を採用するという方針に則り、小論文および面接を課す試験方法を設定している。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64	学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	【学部・学科】 ・『全学入試委員会規程』 ・『生命科学部 教授会規程』	【学部・学科】 ・全学入試委員会、生命科学部教授会、生命科学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施しているが、生命科学部入試委員会規定は制定されておらず、必要に応じ、入試委員会で議論している。	B		
		65	一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	【学部・学科】 ・『大学基礎データ 表4』	【学部・学科】 ・H24年度入試においては、各学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	B		
		66	アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・『入試システムガイド 2013』 【学科】 ・応用生物科学科 アドミッション・ポリシー ・『入試システムガイド 2013』	【学部・学科】 ・入試方式や募集人員、選考方法は、おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定している。	A		

3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部】 ・生命科学部における過去5年の入学者定員に対する入学者比率の平均は1.23であり、1.19を超えているが前年度(1.27)に比べてやや改善した。 【学科】 ・応用生物科学科における過去5年の入学者定員に対する入学者比率の平均は1.20倍となっている。	B		
		68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部】 ・生命科学部における収容定員に対する在籍学生数比率は、1.19であり、1.20以内に収まっている。 【学科】 ・応用生物科学科における収容定員に対する在籍学生数比率は1.18倍となっている。	A		
		69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部・学科】 ・生命科学部では他大学、他学科からの編入学を認めていない。	A		
4) 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 入試委員会議事録」 ・「生命科学部 教授会議事録」	【学部・学科】 ・生命科学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学者数策定の分析を行い、生命科学部教授会に報告し、議論している。	A		
		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。		【学部・学科】 ・アドミッション・ポリシーの適切性については、過去、定期的な検証を行ってこなかったが、新しいカリキュラム改訂の度に検証を行うべく、現在準備中である。	B		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	【学部・学科】 ・「全学 入試委員会議事録」 ・「生命科学部 入試委員会議事録」	【学部・学科】 ・全学入試委員会および生命科学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証・検討を行っている。	A		

(6) 学生支援

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
2) 学生への修学支援は適切に行われているか	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性	73	原級者、休・退学者のデータを教授会等の会議で教職員に周知し、情報の共有化を図るとともに、理由把握等に努め、適切な指導、支援を行っているか。	・「生命科学部 教授会議事録」	・単位僅少者に対して担任教員が面接を行い、早期の指導・支援を行うことにより、原級、休・退学の減少に努めている。 ・原級、休・退学に関しては、担任教員による面接を実施した後に、生命科学部教授会にて事由の報告・承認を行っている。集計や理由の分析等は実施していない。 ・医務室・学生相談室・学習支援室と可能な限り情報共有し、連携して問題の解決を行っている。	A		
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施	74	教員および学生に実態調査を行うなどして、必要な補習・補充教育を適切に提供するとともに、その効果についての検証を行っているか。	・学科 教育課程表 ・「2012履修要覧」 ・生命科学部パンフレット p.24	・補習、補充教育については、「ライフサイエンス基礎I・II」を用意するとともに「学習支援室」を設置して、高等学校までの学習が十分でない学生への対応を行っている。 ・上記取り組みに関する実態調査や、効果の検証等は実施していない。	B		
4) 学生の進路支援は適切に行われているか	進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施	75	正課教育において、学生が卒業後、社会的・職業的自立を図るための能力を育成しているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・「2012履修要覧」 ・該当科目 シラバス 【学科】 ・応用生物科学科 教育課程表 ・「2012履修要覧」 p.54-55 ・該当科目 シラバス	【学部】 ・教養科目「キャリアデザイン」を配置して、学生の社会人としての基礎力を養成している。 ・「実務研修」を配置して、講義と実社会との関連を理解させ、就業先での自立がスムーズに行える様に務めている。 【学科】 ・応用生物科学科として自主研究プログラムを配置、学生の自立的な研究提案・実施を支援している。 ・「生物工学」などより実学に近い講義科目を設定し、講義と実社会との関連を理解させ、就業先での自立がスムーズに行えるように努めている。	B		

(7)教育研究等環境

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期	
4)教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備	76 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じて、講義室の規模、実験・実習室の設備、実習室の座席数などが整備されているか。	・『2012履修要覧』 p.348-351 ・『学生生活ハンドブック』 p.104-115 ・板倉キャンパス設備一覧 http://www.toyo.ac.jp/room/facilityList_j/c/itakura/b/0/	・おおむね施設・設備は整備されているが、生命科学部における教育課程の関係上、学生実習室や、PC教室が十分とはいえない。	B			
	ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備	77 TA、SA等の人的支援が行われているか。	・『東洋大学教育補助員採用内規』 ・『平成24年度 TA・PRA一覧表』	・TA、SAについては、『教育補助員採用内規』に従い、毎年40名程度が採用されている。 ・生命科学部での2学科の新設に伴い、実験・実習科目が増加し、TAとしての大学院生の数が不足している。	B			
	教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保	78 専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給しているか。	・『生命科学部 教授会議事録』	・『生命科学部 教授会議事録』	・一般研究費として専任教員1人につき、実験系教授69.4万円、実験系准教授64.1万円、非実験系教員53.2万円、契約制英語教員および助教28万円の研究費が支給されている。	A		
		79 専任教員に対する研究室を整備しているか。	・『2012履修要覧』 p.304-329	・『2012履修要覧』 p.304-329	・専任教員全員に個人研究室が配分されている。	A		
	80 研究専念時間の設定など、教員の研究機会を保障しているか。	・『平成24年度時間割編成並びに授業運営について』	・『平成24年度時間割編成並びに授業運営について』	・時間割編成時に教務部長名で、『専任教員は週3日以上出校し、学部授業を週5コマ以上担当することを原則とします』としており、おおむね、授業日以外の1~2日を研究に充てることができるが、学内業務等の増加のため、完全に保証されているとはいえない。	A			
5)研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか	研究倫理に関する学内規程の整備状況	81 研究倫理に関する学内規程を整備するとともに、研究倫理に関する研修会等を実施するなど、研究倫理を浸透させるための措置を行っているか	・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程』 ・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会細則』 ・『魚類および両生類実験における指針』 ・『魚類および両生類実験取扱要領』	・平成21年に生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程および細則を整備し、該当する研究の審査を行っている。 ・研究倫理に関する研修会等については実施していない。 ・平成22年に魚類および両生類実験における指針および取扱要領を整備している。	A			
	研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性	82 研究倫理に関する審査機関の設置し、適切に運営しているか。	・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程』 ・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会細則』	・生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程および細則に基づき審査委員会を設置し適切に運営している	A			

(8) 社会連携・社会貢献

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか	産・学・官等との連携の方針の明示	83	学部の目的を踏まえて、産・学・官等との連携に関する方針を定めているか。	・LIFE研究会会則	・平成21年度に産官学・地域連携事業推進を目的とした「産官学連携推進会議」を設置した。 ・平成22年度に産学官連携ネットワークを構築することを目的としてLIFE研究会を設置し、毎年総会や運営委員会を開催するとともに、分科会を設置して、継続的に講演会や交流会を実施している。	S		
	地域社会・国際社会への協力方針の明示	84	学部の目的・目標を踏まえて、地域社会・国際社会への協力方針を定めているか。		・地域社会・国際社会への協力方針は、学部では定めていない。	C	地域社会・国際社会への協力方針について学部内で継続的に議論を進める。	未定
2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動	85	学部の教育・研究の成果を、社会へのサービス活動に還元しているか。	・地域連携サイエンスカフェ実施細則(館林市・板倉町・東洋大学間の覚書)	・「地域連携サイエンスカフェ」、「生命科学部シンポジウム」を開催し、学部の教育・研究の成果を、地域へのサービス活動に還元している。	A		
	学外組織との連携協力による教育研究の推進	86	学部の教育・研究の推進のために、他大学や学外の研究所や組織等との連携・協力を行っているか。	・生命科学部・農業技術センター包括協定	・共同研究、研究成果普及および人材育成を目的として、群馬県立農業技術センターと包括協定を締結している。	A		
	地域交流・国際交流事業への積極的参加	87	地域交流・国際交流事業に積極的に取り組んでいるか。	・地域活性化研究所「研究所だより」	・地域活性化研究所を設置し、地域交流事業・国際交流事業を展開している。 ・125周年記念国際シンポジウムの開催を準備中。	A		

(10) 内部質保証

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか	自己点検・評価の実施と結果の公表	88 自己点検・評価を、明文化された規程に基づき、定期的実施しているか。	・H23年度自己点検・評価 ・東洋大学 授業評価アンケート(生命科学部FD委員会)	・H23年度より定期的に自己点検・評価を実施している。 ・授業については、学期ごとに授業評価アンケートを実施している。 ・「生命科学部 自己点検・評価委員会規程」は規定されていない。	B		
		89 自己点検・評価の結果を、刊行物としての配布、ホームページへの掲載等によって、当該大学以外の者がその内容を知りうる状態になっているか。		・自己点検・評価の結果は、現時点では公表していない。 ・授業評価アンケートの結果をホームページに掲載する準備を進めている。	C	平成24年度の授業評価アンケートの結果をホームページに掲載する。	平成24年度末まで
2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか	内部質保証の方針と手続きの明確化	90 自己点検・評価の結果を、学部の改革・改善や学部の企画・運営につなげるための方針と手続きが明確にされているか。		・自己点検・評価の結果を、生命科学部教授会において報告しているが、学部の改革・改善や学部の企画・運営につなげるための方針と手続きについては明確にしている。	C	自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための方針と手続きについて、学部内で継続的に議論を進める。	未定
	内部質保証を掌る組織の整備	91 自己点検・評価結果を、改革・改善や学部の企画・運営につなげるための委員会等が整備されているか。		・現段階では、自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための委員会等は整備されていないが、生命科学部運営委員会や生命科学部教授会において、折にふれ議論している。	C	自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための委員会の整備について、学部内で継続的に議論を進める。	未定
	自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムの確立	92 自己点検・評価の結果を、改革・改善や学部の企画・運営につなげる連携システムが確立されているか。		・現段階では、自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や学部の企画・運営につなげる連携システムは確立されていない。	C	自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための連携システムについて、学部内で継続的に議論を進める。	未定
3) 内部質保証システムを適切に機能させているか	組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実	93 学部、学科、教員の各レベルで自己点検・評価活動が行われているか。	・H23年度自己点検・評価 ・生命科学部 授業改善レポート	・H23年度より定期的に学部・学科の自己点検・評価を実施している。 ・授業については、毎年授業評価アンケートを実施し、担当科目について、授業改善レポートを作成している。	A		
	教育研究活動のデータベース化の推進	94 「東洋大学研究者情報データベース」に、学部の専任教員の研究業績が適切に構築されている。	・東洋大学研究者情報データベース ・平成24年度研究者情報データベース更新状況	・専任教員の「東洋大学研究者情報データベース」への登録率は91.3%であり、H24年に56%の教員がデータの更新を行なっている。	B		
	学外者の意見の反映	95 学外者の意見を聴取するなど、内部質保証の取り組みの客観性・妥当性を高めるための工夫を行っているか。		・自己点検・評価において、学外者の意見を積極的に聴取するための工夫は行っていない。	C	自己点検・評価の結果について学外者の意見を聴取する方策について、議論を進める。	未定
	文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項への対応	96 文部科学省の設置認可・履行状況報告の際の留意事項、大学基準協会の認証評価の際の指摘事項について、改善のための具体的な取り組みを行っているか。	・「改善報告書」(H23.7大学基準協会提出)	・文部科学省関連の留意事項はなし。 ・H19の認証評価時の指摘事項については、H19～H23にかけて改善に向けた取り組みを行い、指摘を受けた2項目についてはすでに改善に向けた取り組みを行い、改善済み。	A		

(11) 独自の評価項目 及び 学生からの意見等

評価項目	評価の視点		判断基準および 判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
		97						
		98						
		99						
		100						
		101						
		102						
		103						
		104						
		105						

平成24(2012)年度

東洋大学 自己点検・評価

部門名 : 生命科学部 食環境科学科

(1)理念・目的

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか	理念・目的の明確化	1	学部、学科ごとに、人材養成に関する目的その他教育研究上の目的を、学則またはこれに準ずる規程等に定めているか。	【学部・学科】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」	【学部】 ・生命科学部において、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。 【学科】 ・食環境科学科では、「人材の養成に関する目的」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A	
		2	学部、各学科の目的は、高等教育機関として大学が追求すべき目的(教育基本法、学校教育法参照)と整合しているか。	【学部】 ・生命科学部の目的 【学科】 ・食環境科学科の目的	【学部】 ・生命科学部の目的は、教育基本法の「第7条 および学校教育法の「第83条」と整合しており、高等教育機関として適切であるといえる。 【学科】 ・食環境科学科の目的は、教育基本法第7条の「高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする」と整合しており、高等教育機関として適切であるといえる。	A	
		3	学部、各学科の目的は、建学の精神や大学の理念との関係性や、目指すべき方向性、達成すべき成果などを明らかにしているか。	【学部】 ・「建学の精神」、「大学の理念」 ・生命科学部の目的 【学科】 ・食環境科学科の目的	【学部】 ・生命科学部の目的は、本学の三つの建学の精神である「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」、「知徳兼全」を根本としている。また、生命科学部の目指すべき方向性や達成すべき成果をホームページ、大学・学部パンフレットによって明らかにしている。 【学科】 ・食環境科学科の目的は、建学の精神である「諸学の基礎は哲学にあり」、「独立自活」、「知徳兼全」としてあり、また、食環境科学科の目指すべき方向性や達成すべき成果を明らかにしている。	A	
	実績や資源からみた理念・目的の適切性	4	学部、各学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっているか。	【学部・学科】 ・東洋大学研究者情報データベース	【学部】 ・生命科学部の目的は、これまでの教育・研究実績、教員編成、設備整備・拡充の観点からみて、適切であるといえる。 【学科】 ・食環境科学科の目的は、これまでの実績や現在の人的・物的・資金的資源からみて、適切なものとなっている。	A	
	個性化への対応	5	学部、各学科の目的の中に、当該学部、学科の個性・特色を、中教審における大学の機能別分化論も視野に入れて打ち出しているか。	【学部】 ・生命科学部の目的 ・『2012履修要覧』 p.3 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/indexj.html 【学科】 ・食環境科学科の目的 ・『2012履修要覧』 p.59 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/indexj.html	【学部】 ・生命科学部の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「世界的研究・教育拠点」、「幅広い職業人養成」と「社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)」の機能を踏まえて、生命科学部の個性・特色を打ち出し設定されている。 【学科】 ・食環境科学科の目的は、中央教育審議会の答申の機能別分化論における、「幅広い職業人養成」と「社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)」の機能を踏まえて、食環境科学科の個性・特色を打ち出すべく設定されている。	A	

2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか	構成員に対する周知方法と有効性	6	教職員・学生が、学部、各学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	<p>【学部】 ・『2012履修要覧』 p.3 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/indexj.html</p> <p>【学科】 ・『2012履修要覧』 p.59 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/indexj.html</p>	<p>【学部】 ・生命科学部の目的を、『履修要覧』に記載し、学生および教職員に配付している。 ・生命科学部の目的、教育目標は、ホームページに記載している。</p> <p>【学科】 ・食環境科学科の目的を、『履修要覧』に記載して、学生および教職員に配付している。 ・食環境科学科の目的、教育目標は、ホームページに記載している。</p>	A		
		7	学部、各学科の目的の周知方法の有効性について、構成員の意識調査等による定期的な検証や、検証結果を踏まえた改善を行っているか。	<p>・新入生アンケート集計表</p>	<p>【学部】 ・生命科学部の目的の周知方法の有効性については、新入生に対して毎年7月にアンケート調査を行い、その結果を基に改善方法等の調整を図っている。</p> <p>【学科】 ・新入生アンケートにより、方法の有効性を毎年調査している。</p>	B		
	社会への公表方法	8	受験生を含む社会一般が、学部、学科の目的を、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	<p>【学部】 ・『2013 MANABI BOOK TOYO UNIVERSITY』 p.50 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/indexj.html</p> <p>【学科】 ・『生命科学部 パンフレット』 p.16 ・『東洋大学 2012 Guide Book』 p.46 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/dabs/indexj.html</p>	<p>【学部】 ・大学、学部パンフレットでは、生命科学部の「人材の養成に関する目的」を直接記載はしていないが、目的を、より分かりやすい形で記載している。 ・生命科学部の目的は、ホームページに記載している。</p> <p>【学科】 ・大学、学部パンフレットには、食環境科学科の「人材の養成に関する目的」を直接記載はしていないが、目的を、より分かりやすい形で記載している。 ・食環境科学科の目的は、ホームページに記載している。</p>	B		
3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか		9	学部、各学科の目的の適切性を、定期的に検証しているか。		<p>【学部】 ・生命科学部の目的の適切性については、カリキュラム改訂時に議論し、適切性を検証している。</p> <p>【学科】 ・アンケート調査や入試志願動向調査により、目的の適切性についての検証を行っている。</p>	B		

(2) 教育研究組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 大学の学部・学科・研究科・専攻及び附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか	教育研究組織の編成原理	10	学部の目的を実現するための、教育研究組織の編成原理を明確にしているか。	・生命科学部の目的 ・『2012履修要覧』 p.3	・生命科学部では、教育研究組織の編成原理は、教務委員会および教授会で議論し、調整を図っている。	A		
	理念・目的との適合性	11	教育研究組織は、学部の目的を実現する上で適切かつ有効に機能する組織となっているか。	・生命科学部の目的 ・『2012履修要覧』 p.3 ・組織図	・生命科学部の目的、目標である「生命科学を教育研究することにより、生命の総合的理解の上に立って、地球社会の発展に貢献する創造的思考能力、かつ倫理観を合わせもった人材の育成」を実現するために、学問領域を「生命」「環境」「食」の3領域に分けて、生命科学科、応用生物科学科、食環境科学科の3学科体制で教育研究組織を編成している。	A		
	学術の進展や社会の要請との適合性	12	学術の進展や社会的な要請を考慮した教育研究組織となっているか。	・生命科学部の目的 ・『2012履修要覧』 p.3	・生命科学部の教育研究組織は、生命科学 という学術の進展や、再生医療、環境修復、食の安全・安心 という社会的な要請に対応するために適切である。	A		
2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか		13	教育研究組織の適切性を、定期的に検証しているか。	・『生命科学部 教授会議事録』	・生命科学部教授会において、年度毎に事業計画・課題を作成し、この中で入学者の質、地域教育・地域事業との連携を考慮した教育研究体制の整備に努め、定期的に組織の検討を行っている。	A		

(3) 教員・教員組織

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 大学として求める教員像および教員組織の編成方針を明確に定めているか	教員に求める能力・資質等の明確化	14	教員の採用・昇格に関する審査基準を明確にしているか。	・『東洋大学教員資格審査委員会規程』 ・『生命科学部教員資格審査委員会細則』 ・『生命科学部教員資格審査基準細則』 ・『東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則』	・『東洋大学教員資格審査委員会規程』の他、『生命科学部教員資格審査委員会細則』、『生命科学部教員資格審査基準細則』、『東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則』に定め、生命科学部教授会を通して生命科学部の全専任教員に周知している。	S		
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化	15	組織的な教育を実施するために、教員間の連携体制が取られているか。	・『生命科学部 教務委員会規程』	・生命科学部教務委員会が、生命科学部における教育に関する諸問題に対して、連携・調整を図っている。	S		
	教員構成の明確化	16	学科の目的を実現するために、教員組織の編成方針を明確にしているか。		【学部】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていないが、新規教員採用時には資格審査委員会、専任教員採用委員会で議論し、教員組織に偏りが出ないように配慮し調整を図っている。 【学科】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていない。	B		
		17	学部、各学科の個性、特色を發揮するために、契約制外国人教員、任期制教員、非常勤講師などに関する方針を明確にしているか。		【学部】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていないが、必要に応じて教務委員会、教授会、各学科で議論し調整を図っている。 【学科】 ・教員組織の編成方針は、生命科学部として定めていない。	B		

2) 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか	編制方針に沿った教員組織の整備	18	学部、各学科に割り当てられた専任教員数(教員補充枠)を充足しているか。	【学部、学科】 ・「大学基礎データ」表2	【学部】 ・生命科学部に割り当てられた専任教員数を充足している。 【学科】 ・食環境科学部に割り当てられた専任教員数を充足している。	A		
		19	学部、各学科において、専任教員数(助教除く)の半数は教授となっているか。	【学部、学科】 ・「大学基礎データ」表2	【学部】 ・生命科学部では、専任教員の半数以上は教授(64%)となっている。 【学科】 ・食環境科学部の専任教員の半数は教授となっている。	A		
		20	学部として、～30、31～40、41～50、51～60、61歳以上の各年代の比率が、著しく偏っていないか。	・「大学基礎データ」表A	・生命科学部教員の各年代の比率は、 ～30歳:0% 31～40歳:22.7% 41～50歳:22.7% 51～60歳:29.5% 61～歳:25.0% となっており、いずれも35%を超過していない。	A		
		21	教員組織の編成方針に則って教員組織が編成されているか。	【学部、学科】 ・「生命科学部 教授会議事録」	【学部・学科】 ・生命科学部における教員組織の編成については、カリキュラム改訂時に、生命科学部教務委員会、生命科学部教授会および各学科で議論され、教育理念、教育目標に沿った教員組織が編成されるよう調整を図っている。	A		
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備	22	専任・非常勤を問わず、教員の科目担当について、教育研究業績に基づいて担当の可否を判断しているか。	・「生命科学部教員資格審査基準細則」	・専任・非常勤を問わず、新規の科目を担当する際には、生命科学部教員資格審査委員会に「科目審査」として諮り審議している。	S		
3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化	23	教員の採用・昇格に関する手続きを明確にしているか。	・「東洋大学教員資格審査委員会規程」 ・「生命科学部教員資格審査委員会細則」 ・「生命科学部教員資格審査基準細則」 ・「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」	・「東洋大学教員資格審査委員会規程」の他、「生命科学部教員資格審査委員会細則」、「生命科学部教員資格審査基準細則」、「東洋大学生命科学部専任教員採用委員会運用規則」に定め、生命科学部教授会を通して生命科学部の全専任教員に周知している。	S		
	規程等に従った適切な教員人事	24	教員の採用・昇格に際し、規程等に定められたルールが適切に守られているか。	・「生命科学部 教授会議事録」 ・「生命科学部 教員資格審査報告書」	・教員の採用、昇格は、規程に従って厳格に行われている。	S		
4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか	ファカルティ・ディベロップメント(FD)の実施状況と有効性	25	研究、社会貢献、管理業務に関して、教員の資質向上に向けた取り組みをしているか。	・「生命科学部報告書:生命科学」 ・「生命科学部 教授会議事録」 ・生命科学部シンポジウムの開催	・生命科学部の自己点検・活動の一環として、各教員の研究業績、教育実績、社会貢献活動等の一覧を、「生命科学部報告書:生命科学」に記載している。 ・日本私立大学連盟主催のFD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に新任教員を派遣し、学部内で報告会を実施している。 ・年2回、生命科学部シンポジウムを開催し、教員の研究、社会貢献活動を公表している。	S		
	教員の教育研究活動等の評価の実施	26	教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施しているか。		・教員評価制度は、全学的に検討する方向で議論がなされており、これらを見据えて、学部として検討する必要がある、現段階では、実施に至っていない。	C	・教員の教育研究活動等の評価を、教育、研究、社会貢献、管理業務などの多様性を踏まえて実施する必要がある。各活動の評価基準など課題も多く、継続的に検討を行っている。	実施時期未定

(4) 教育内容・方法・成果

「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示	27 教育目標を明示しているか。	【学部】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『2012履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 【学科】 ・「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」 ・『2012履修要覧』 p.59 ・『学生生活ハンドブック』 p.10	【学部】 ・生命科学部において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。 【学科】 ・食環境科学科において、「学生に修得させるべき能力等の教育目標」を、「学部等の教育研究上の目的の公表等に関する規程」に定めている。	A		
	教育目標と学位授与方針との整合性	28 ディプロマ・ポリシーを設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・食環境科学科 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部において、ディプロマ・ポリシー を定めている。 【学科】 ・食環境科学科において、ディプロマ・ポリシー を定めている。	A		
		29 教育目標とディプロマ・ポリシーは整合しているか。	【学部】 ・生命科学部 教育目標 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/faculty_j.html ・『2012履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・食環境科学科 教育目標 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/dfls/index.html ・『2012履修要覧』 p.59 ・『学生生活ハンドブック』 p.10 ・食環境科学科 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部の教育目標とディプロマ・ポリシー は整合している。 【学科】 ・食環境科学科の教育目標とディプロマ・ポリシー は整合している。	A		
	修得すべき学習成果の明示	30 ディプロマ・ポリシーには、修得すべき学習成果が明示されているか。	【学部】 ・生命科学部 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・食環境科学科 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部のディプロマ・ポリシー には、修得すべき学習成果が明示されている。 【学科】 ・食環境科学科のディプロマ・ポリシー には、修得すべき学習成果が明示されている。	A		

2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示	31	カリキュラム・ポリシーを設定しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食環境科学科 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科において、カリキュラム・ポリシー を定めている。 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食環境科学科において、カリキュラム・ポリシー を定めている。 	A		
		32	カリキュラム・ポリシーは、教育目標やディプロマ・ポリシーと整合しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 生命科学部 教育目標 http://www.toyo.ac.jp/lsc/faculty_j.html 『2012履修要覧』 p.3 『学生生活ハンドブック』 p.9 生命科学部 ディプロマ・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食環境科学科 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 食環境科学科 教育目標 http://www.toyo.ac.jp/lsc/dfls/index.html 『2012履修要覧』 p.59 『学生生活ハンドブック』 p.10 食環境科学科 ディプロマ・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科のカリキュラム・ポリシー は、教育目標およびディプロマ・ポリシー と整合している。 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食環境科学科のカリキュラム・ポリシー は、教育目標やディプロマ・ポリシー と整合している。 	A		
		33	カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 各学科 教育課程表 『2012履修要覧』 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食環境科学科 カリキュラム・ポリシー http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 食環境科学科 教育課程表 『2012履修要覧』 p.68-69 	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科では、それぞれのカリキュラム・ポリシーに基づいた、特色ある科目を用意している。 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食環境科学科では、カリキュラム・ポリシーの「化学や生物を初めて学ぶ人にも十分学習できるカリキュラム」に対応して、科目「基礎化学(初めての化学)」「基礎生物学(初めての生物)」を用意し、必修としている。 	A		

3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか	周知方法と有効性	34	教職員・学生が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしており、かつ、その周知方法が有効であるか。	【学部、学科】 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部および各学科のディプロマ・ポリシーと各学科のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。また、新学期のガイダンス等で教職員・学生に周知するようにしている。 【学科】 ・食環境科学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。また、新学期のガイダンス等で教職員・学生に周知するようにしている。	A		
	社会への公表方法	35	受験生を含む社会一般が、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	【学部、学科】 ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部および各学科のディプロマ・ポリシーと各学科のカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。 【学科】 ・食環境科学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーは、ホームページで公開している。	A		
4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか		36	教育目的、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性を、定期的に検証しているか。		【学部】 ・教育目標、ディプロマ・ポリシーおよび各学科のカリキュラム・ポリシーの適切性について、生命科学部教授会や学科会議等で検証を行っている。 【学科】 ・教育目標、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの適切性について、学科会議等で検証を行っている。	A		

「教育課程・教育内容」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか	必要な授業科目の開設状況	37 教育課程上、主要な授業科目はすべて開講しているか。	【学部・学科】 ・『2012授業時間割表』	【学部・学科】 ・必修科目、選択必修科目はすべて開講している。	A		
	順次性のある授業科目の体系的配置	38 教育課程は、授業科目の順次性に配慮して、各年次に体系的に配置されているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・食環境科学科 教育課程表 ・食環境科学科 科目展開チャート ・『2012履修要覧』 p.62	【学部】 ・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を設定しているが、科目間の授業内容に関する連携が弱い部分も見受けられる。 【学科】 ・授業科目の難易度に合わせ、配当学年を適切に設定するとともに、基礎から応用への順次性を配慮した配置になっている。	A		
	教養教育・専門教育の位置づけ	39 教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしているか。	【学部】 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・『2012履修要覧』 p.62	【学部・学科】 ・『履修要覧』において、「一般教養的科目」と「専門科目」の位置づけと役割を、学生に説明している。	A		
	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	40	カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっているか。	【学部】 ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学部】 ・食環境科学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・食環境科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.68-69	【学部・学科】 ・教育課程は、カリキュラム・ポリシー に従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。	A	
2)教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか	学士課程教育に相応しい教育内容の提供	41 中教審答申における「学士力」等を踏まえ、学士課程教育に相応しい教育内容を提供しているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 ・該当科目 シラバス 【学科】 ・食環境科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.68-69 ・該当科目 シラバス	【学部】 ・「学士力」に対応するために、「1.知識・理解」の育成については、科目群「一般教養的教育科目」の「言語と文化」「文化人類学入門」などの授業科目で対応している。また、「2.汎用的技能」の育成については、科目群「一般教養的教育科目」の「情報処理基礎」「情報処理演習」などの授業科目で対応している。「3.態度・志向性」の育成については、科目群「一般教養的教育科目」の「哲学入門」「生命倫理」「科学技術論」や各学科の科目群「専攻領域」の授業科目で対応している。 【学科】 ・「学士力」に対応するために、「汎用的技能」の育成については、選択必修科目の「食品官能評価概論」「プロバイオテイクス」などの授業科目で対応している。	A		
	初年次教育・高大連携に配慮した教育内容	42 専門教育への導入に関する配慮(初年次教育、導入教育の実施等)を行っているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 ・該当科目 シラバス 【学科】 ・食環境科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.68-69 ・該当科目 シラバス	【学部】 ・1年次に「ライフサイエンス基礎I」「ライフサイエンス基礎II」を初年次教育として配置し、2年次および3年次に「生命科学英語I、II」を専門教育への導入教育と位置づけて、少人数で授業を実施している。 ・大学での専門教育への導入教育として、科目群「専攻領域」に「基礎化学」「基礎生物学」などを1年次に必修科目として配置している。 ・高大連携としては、高校での模擬授業への教員の派遣を行っているほか、高校生理科実験の開催やJSTの支援による高大連携事業を計画している。 【学科】 ・高大連携については、2年次生が主に携わる食育コンテストを実施している	A		

「教育方法」

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1)教育方法および学習指導は適切か	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用	43 教育目標を達成するために、各授業科目において、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)を適切に設定しているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命科学部 教育目標 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/faculty_j.html ・『2012履修要覧』 p.3 ・『学生生活ハンドブック』 p.9 ・各学科 教育課程表 ・該当科目 シラバス <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食環境科学科 教育目標 ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/dfls/index.html ・『2012履修要覧』 p.59 ・『学生生活ハンドブック』 p.10 ・食環境科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.68-69 ・該当科目 シラバス 	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双方向型の授業が望ましい分野・領域については、「情報処理演習」等の演習科目を、技術修得が必要な領域・分野については、「生物学実験」「化学実験」「物理実験」および各学科の設置する実験等の実習・実技科目を適宜、配置している。 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双方向型の授業が望ましい分野・領域については、「食環境科学輪講I」等の演習科目を、技術修得が必要な領域・分野については、「食環境科学特別研究I」等の実習・実験科目を適宜、配置している。 	A		
	履修科目登録の上限設定、学習指導の充実	44 単位の実質化を図るため、1年間の履修登録科目の上限を50単位未満に設定しているか(最終年次、編入学生等も含む)。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『2012履修要覧』 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『2012履修要覧』 p.64 	<p>【学部・学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セメスター 制を導入しており、履修登録の上限単位数を、1セメスターにつき24単位(1年間で48単位)に定めている。 	A		
	学生の主体的参加を促す授業方法	45 学生の主体的参加を促すための配慮(学生数、授業方法の工夫、施設・設備の利用など)を行っているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食環境科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.68-69 	<p>【学部・学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体的な学習態度を身につけられるように、「生命科学英語I」「生命科学英語II」では、10~20名程度の少人数グループに分かれての講義を実施し、4年次で、少人数によるゼミ(各学科が設置する輪講)を必修としている。 ・講義科目の教員一人当たりの学生数を整合性のある数に調整し、円滑な授業ができるよう配慮している。 	A		
		46 カリキュラム・ポリシーに従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育方法となっているか。	<p>【学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 <p>【学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食環境科学科 カリキュラム・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・食環境科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.68-69 	<p>【学部・学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法は、各学科のカリキュラム・ポリシー に従い、おおむね学生に期待する学習成果の修得につながるものとなっている。 	A		

2) シラバスに基づいて授業が展開されているか	シラバスの作成と内容の充実	47	シラバスに、講義の目的・内容、到達目標(学習成果)、講義スケジュール(各回の授業内容)を、具体的に記載しているか。	【学部】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・『2012履修要覧』 p.138-167および255-290	【学部・学科】 ・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、各科目の講義の目的・内容、到達目標、講義スケジュールを具体的に記載している。	A		
	授業内容・方法とシラバスとの整合性	48	授業内容・授業方法がシラバスに則って行われているか。	【学部・学科】 ・「授業評価アンケート結果(全体集計)」	【学部・学科】 ・「授業評価アンケート」における「シラバスのとおり授業内容が進んでいるか」の回答は、肯定的な回答が多く、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。 ・「授業評価アンケート」における「シラバスは履修選択に役立った」の回答は、肯定的な回答が多く、おおむね授業内容・方法とシラバスは整合している。	A		
3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示)	49	シラバスの「成績評価の方法・基準」に、複数の方法により評価する場合にはその割合や、成績評価基準を明示しているか。	【学部】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・「シラバス依頼時の文書」 ・『2012履修要覧』 p.138-167および255-290	【学部・学科】 ・各教員にシラバス作成時に詳細なマニュアルを添付して依頼を行っており、各科目の「成績評価の方法・基準」を明示している。	A		
	単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性	50	各授業科目の単位数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・食環境科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.68-69	【学部・学科】 ・各授業科目の単位数は、大学設置基準に従い、 講義科目:半期15周で2単位 演習科目:半期15周で2単位 実験・実習科目:半期15周で1単位 卒業論文:4単位 を原則として、適切に設定している。	A		
		51	各授業科目の授業時間数は、大学設置基準に沿って設定されているか。	【学部・学科】 ・「板倉キャンパス学年暦 2012」	【学部・学科】 ・全ての科目について、各学期15回の授業と定期試験を設定している。	A		
	既修得単位認定の適切性	52	海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で修得した単位の認定、TOEIC等、または入学前の学習の単位認定を、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っているか(編入学者を除く)。	【学部・学科】 ・「東洋大学学則」第43条 ・「東洋大学学生の留学に関する規程」第10条 ・「海外留学制度における単位の認定」 ・『2012履修要覧』 p.114 ・「群馬県内大学単位互換科目」 ・『2012履修要覧』 p.73	【学部・学科】 ・海外を含む他大学、短期大学、高等専門学校で習得した単位の認定、入学前の学習の単位認定は、適切な手続きに従って、合計60単位以下で行っている。 ・単位の認定の適切性について、今後議論していく。	B		
4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	53	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 FD委員会規程」	【学部・学科】 ・生命科学部FD委員会が、年に2回程度、委員会を開催し、学部FDについての研究を行うとともに、学部FD研修会等を実施している。	A		
		54	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が定期的実施されており、かつ、研修・研究の成果が具体的に明らかになっているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 FD活動報告書」	【学部・学科】 ・日本私立大学連盟主催のFD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に新任教員を派遣し、学部内で報告会を実施している。 ・生命科学部FD委員会が、当該年度の活動を報告書にまとめ、全学FD委員会にて報告を行っている。	A		

「成果」

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方針	改善時期
1)教育目標に沿った成果が上がっているか	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用	55	各科目における学生の学習効果を測定するための評価指標を開発・運用し、教育内容・方法等の改善に努めているか。	【学部・学科】 ・『授業評価アンケートについて』 ・『授業評価アンケート結果』 ・『授業評価アンケート結果に対する改善方針の提出について』	【学部・学科】 ・授業評価アンケートを毎年実施して、学生の学習効果の測定を行うとともに、各教員にはアンケート結果に対する改善方針を提出してもらい、自由に閲覧できるようにしている。	A		
	学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)	56	学生の自己評価や、学部、学科の教育効果や就職先の評価、卒業時アンケートなどを実施しているか。	東洋大学卒業生アンケート	【学部・学科】 H23年度より大学教育および運営に反映させることを目的として、教育内容・学生生活に関する満足度や学習成果などについてのアンケートを全学的に実施している。	A		
2)学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか	学位授与基準、学位授与手続きの適切性	57	卒業要件を明確にし、あらかじめ学生が知りうる状態にしているか。	【学部】 ・『2012履修要覧』 【学科】 ・『2012履修要覧』 p.63-64	【学部・学科】 ・『履修要覧』に卒業要件を明示するとともに、新入生ガイダンスおよび進級時のガイダンス時に繰り返し周知している。	A		
		58	ディプロマ・ポリシーと卒業要件が整合しており、ディプロマ・ポリシーに則って学位授与を行っているか。	【学部】 ・生命科学部・各学科 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・各学科 卒業要件 ・『2011履修要覧』 【学科】 ・食環境科学科 ディプロマ・ポリシー ・ http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html ・食環境科学科 卒業要件 ・『2012履修要覧』 p.63	【学部・学科】 ・卒業要件は、おおむねディプロマ・ポリシーと整合しており、適切に学位授与を行っている。	A		

(5) 学生の受け入れ

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 学生の受け入れ方針を明示しているか	求める学生像の明示	59 アドミッション・ポリシーを設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・食環境科学科 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部において、アドミッション・ポリシーを定めている。 【学科】 ・食環境科学科において、アドミッション・ポリシーを定めている。	A		
		60 アドミッション・ポリシーは、学部、各学科の目的、教育目標を踏まえ、修得しておくべき知識の内容、水準等を明らかにしているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・食環境科学科 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部のアドミッション・ポリシーは、学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。 【学部】 ・食環境科学科のアドミッション・ポリシーは、学部、学科の目的、教育内容を踏まえた内容となっており、修得しておくべき知識の内容、水準等が明示されている。	A		
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示	61 受験生を含む社会一般が、アドミッション・ポリシーを、公的な刊行物、ホームページ等によって知りうる状態にしているか。	【学部】 ・『入学試験要項 2013』 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html 【学科】 ・『入学試験要項 2013』 ・食環境科学科 アドミッション・ポリシー ・http://www.toyo.ac.jp/lsc/policy_j.html	【学部】 ・生命科学部のアドミッション・ポリシーは、全学の『入学試験要項』およびホームページにおいて公開している。 【学科】 ・食環境科学科のアドミッション・ポリシーは、全学の『入学試験要項』およびホームページにおいて公開している。	A		
2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性	62 受験生に、入試方式別に、募集人員、選考方法を明示しているか。	【学部・学科】 ・『入試システムガイド 2013』	【学部・学科】 ・各入試方式とも、募集人員、選考方法を、『入試システムガイド』にて受験生に明示している。	A		
		63 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式の趣旨に適した学生募集や、試験科目や選考方法の設定をしているか。	【学部・学科】 ・『入試システムガイド 2013』	【学部・学科】 ・一般入試では、「広範囲の学問領域に対して柔軟かつ広角的な思考力を有する人材を受け入れる」という方針に則り、理系・文系にとられない形で複数の選抜試験を実施し、また、推進入試では、学習意欲ならびに明確な目的意識をもち、コミュニケーション能力や倫理観を有する人物を採用するという方針に則り、小論文および面接を課す試験方法を設定している。	A		
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性	64 学生募集、入学者選抜を適切に行うために必要な体制を整備しているか。	【学部・学科】 ・『全学入試委員会規程』 ・『生命科学部 教授会規程』	【学部・学科】 ・全学入試委員会、生命科学部教授会、生命科学部入試委員会が連携して、学生募集、選抜を実施しているが、生命科学部入試委員会規定は制定されておらず、必要に応じ、入試委員会で議論している。	B		
		65 一般入試、推薦入試、AO入試等、各入試方式で、募集定員の2倍以上の学生が入学していないか。	【学部・学科】 ・『大学基礎データ 表4』	【学部・学科】 ・H24年度入試においては、各学科の各入試方式において、募集定員の2倍以上の学生は入学していない。	B		
66 アドミッション・ポリシーに従って、入試方式や募集人員、選考方法を設定しているか。	【学部】 ・生命科学部 アドミッション・ポリシー ・『入試システムガイド 2013』 【学科】 ・食環境科学科 アドミッション・ポリシー ・『入試システムガイド 2013』	【学部・学科】 ・入試方式や募集人員、選考方法は、おおむねアドミッション・ポリシーに従って設定している。	A				

3)適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性	67	学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が0.90～1.25(実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部】 ・生命科学部における過去5年の入学者定員に対する入学者比率の平均は1.23であり、1.19を超えているが前年度(1.27)に比べてやや改善した。 【学科】 ・食環境科学科における、過去5年の入学者定員に対する入学者比率の平均は1.22倍となっている。	B		
		68	学科における収容定員に対する在籍学生数比率が0.90～1.25(実験・実習系の学科は1.20)の範囲となっているか。 実験・実習系:理工学部、生命科学部、ライフデザイン学部、総合情報学部の全学科、および社会学部社会心理学科、社会福祉学科、文学部教育学科	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部】 ・生命科学部における収容定員に対する在籍学生数比率は、1.19であり、1.20以内に収まっている。 【学科】 ・食環境科学科における収容定員に対する在籍学生数比率は、1.18である。	A		
		69	学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が0.7～1.29の範囲となっているか。また、編入学を「若干名」で募集している場合、10名以上の学生を入学させていないか。	【学部・学科】 ・「大学基礎データ 表4」	【学部】 ・生命科学部では他大学、他学科からの編入学を認めていない。 【学科】 ・食環境科学科では他大学、他学科からの編入学を現時点では認めていない。	A		
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応	70	定員超過または未充足について、原因調査と改善方策の立案を行っているか。	【学部・学科】 ・「生命科学部 入試委員会議事録」 ・「生命科学部 教授会議事録」	【学部・学科】 ・生命科学部入試委員会において、毎年度、前年度の入学者数策定の分析を行い、生命科学部教授会に報告し、議論している。	A		
4)学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか		71	アドミッション・ポリシーの適切性を、恒常的に検証しているか。		【学部・学科】 ・アドミッション・ポリシーの適切性については、過去、定期的な検証を行ってこなかったが、新しいカリキュラム改訂の度に検証を行うべく、現在準備中である。	B		
		72	学生募集および入学者選抜の適切性を定期的に検証する組織を常設して、定期的にその適切性と公平性についての検証を行っているか。	【学部・学科】 ・「全学 入試委員会議事録」 ・「生命科学部 入試委員会議事録」	【学部・学科】 ・全学入試委員会および生命科学部入試委員会において、毎年度、各入試方式の募集定員、選抜方法の検証・検討を行っている。	A		

(6) 学生支援

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
2) 学生への修学支援は適切に行われているか	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性	73	原級者、休・退学者のデータを教授会等の会議で教職員に周知し、情報の共有化を図るとともに、理由把握等に努め、適切な指導、支援を行っているか。	・「生命科学部 教授会議事録」	・単位僅少者に対して担任教員が面接を行い、早期の指導・支援を行うことにより、原級、休・退学の減少に努めている。 ・原級、休・退学に関しては、担任教員による面接を実施した後に、生命科学部教授会にて事由の報告・承認を行っている。集計や理由の分析等は実施していない。 ・医務室・学生相談室・学習支援室と可能な限り情報共有し、連携して問題の解決を行っている。	A		
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施	74	教員および学生に実態調査を行うなどして、必要な補習・補充教育を適切に提供するとともに、その効果についての検証を行っているか。	・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 ・生命科学部パンフレット p.24	・補習、補充教育については、「ライフサイエンス基礎I・II」を用意するとともに「学習支援室」を設置して、高等学校までの学習が十分でない学生への対応を行っている。 ・上記取り組みに関する実態調査や、効果の検証等は実施していない。	B		
4) 学生の進路支援は適切に行われているか	進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施	75	正課教育において、学生が卒業後、社会的・職業的自立を図るための能力を育成しているか。	【学部】 ・各学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 ・該当科目 シラバス 【学科】 ・食環境科学科 教育課程表 ・『2012履修要覧』 p.63、68-69、268 ・該当科目 シラバス	【学部】 ・教養科目「キャリアデザイン」を配置して、学生の社会人としての基礎力を養成している。 ・「実務研修」を配置して、講義と実社会との関連を理解させ、就業先での自立がスムーズに行える様に務めている。 【学科】 ・「食品工学」などのより実学に近い講義科目を設定し、就業先での自立がスムーズに行える様に務めている。 ・食環境科学科として「フードスペシャリスト特別講義」を配置。食関連産業における自立的スペシャリストの育成を行っている。また、入学後、各学年に合わせたスキルアップ教育を実施し、専門職業職に短期間で適用できるような正課教育を展開している。	B		

(7)教育研究等環境

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
4)教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備	76 教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じて、講義室の規模、実験・実習室の設備、実習室の座席数などが整備されているか。	・『2012履修要覧』 p.348-351 ・『学生生活ハンドブック』 p.104-115 ・板倉キャンパス設備一覧 http://www.toyo.ac.jp/room/facilityList/j/c/itakura/b/0/	・おおむね施設・設備は整備されているが、生命科学部における教育課程の関係上、学生実習室や、PC教室が十分とはいえない。	B		
	ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備	77 TA、SA等の人的支援が行われているか。	・『東洋大学教育補助員採用内規』 ・『平成24年度 TA・PRA一覧表』	・TA、SAについては、『教育補助員採用内規』に従い、毎年40名程度が採用されている。 ・生命科学部での2学科の新設に伴い、実験・実習科目が増加し、TAとしての大学院生の数が不足している。	B		
	教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保	78 専任教員に対して、研究活動に必要な研究費を支給しているか。	・『生命科学部 教授会議事録』	・一般研究費として専任教員1人につき、実験系教授69.4万円、実験系准教授64.1万円、非実験系教員53.2万円、契約制英語教員および助教28万円の研究費が支給されている。	A		
		79 専任教員に対する研究室を整備しているか。	・『2012履修要覧』 p.304-329	・専任教員全員に個人研究室が配分されている。	A		
		80 研究専念時間の設定など、教員の研究機会を保障しているか。	・『平成24年度時間割編成並びに授業運営について』	・時間割編成時に教務部長名で、『専任教員は週3日以上出校し、学部授業を週5コマ以上担当することを原則とします』としており、おおむね、授業日以外の1~2日を研究に充てることができるが、学内業務等の増加のため、完全に保証されているとはいえない。	A		
	5)研究倫理を遵守するために必要な措置をとっているか	研究倫理に関する学内規程の整備状況	81 研究倫理に関する学内規程を整備するとともに、研究倫理に関する研修会等を実施するなど、研究倫理を浸透させるための措置を行っているか	・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程』 ・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会細則』 ・『魚類および両生類実験における指針』 ・『魚類および両生類実験取扱要領』	・平成21年に生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程および細則を整備し、該当する研究の審査を行っている。 ・研究倫理に関する研修会等については実施していない。 ・平成22年に魚類および両生類実験における指針および取扱要領を整備している。	A	
研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性		82 研究倫理に関する審査機関の設置し、適切に運営しているか。	・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程』 ・『生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会細則』	・生命科学部・総合情報学部・理工学部のヒトおよびヒト由来物質を対象とした研究に関する倫理審査委員会規程および細則に基づき審査委員会を設置し適切に運営している	A		

(8) 社会連携・社会貢献

評価項目	評価の視点		判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか	産・学・官等との連携の方針の明示	83	学部の目的を踏まえて、産・学・官等との連携に関する方針を定めているか。	・LIFE研究会会則	・平成21年度に産官学・地域連携事業推進を目的とした「産官学連携推進会議」を設置した。 ・平成22年度に産学官連携ネットワークを構築することを目的としてLIFE研究会を設置し、毎年総会や運営委員会を開催するとともに、分科会を設置して、継続的に講演会や交流会を実施している。	S		
	地域社会・国際社会への協力方針の明示	84	学部の目的・目標を踏まえて、地域社会・国際社会への協力方針を定めているか。		・地域社会・国際社会への協力方針は、学部では定めていない。	C	地域社会・国際社会への協力方針について学部内で継続的に議論を進める。	未定
2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動	85	学部の教育・研究の成果を、社会へのサービス活動に還元しているか。	・地域連携サイエンスカフェ実施細則(館林市・板倉町・東洋大学間の覚書)	・「地域連携サイエンスカフェ」、「生命科学部シンポジウム」を開催し、学部の教育・研究の成果を、地域へのサービス活動に還元している。	A		
	学外組織との連携協力による教育研究の推進	86	学部の教育・研究の推進のために、他大学や学外の研究所や組織等との連携・協力を行っているか。	・生命科学部・農業技術センター包括協定	・共同研究、研究成果普及および人材育成を目的として、群馬県立農業技術センターと包括協定を締結している。	A		
	地域交流・国際交流事業への積極的参加	87	地域交流・国際交流事業に積極的に取り組んでいるか。	・地域活性化研究所「研究所だより」	・地域活性化研究所を設置し、地域交流事業・国際交流事業を展開している。 ・125周年記念国際シンポジウムの開催を準備中。	A		

(10) 内部質保証

評価項目	評価の視点	判断基準および判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか	自己点検・評価の実施と結果の公表	88 自己点検・評価を、明文化された規程に基づき、定期的実施しているか。	・H23年度自己点検・評価 ・東洋大学 授業評価アンケート(生命科学部FD委員会)	・H23年度より定期的に自己点検・評価を実施している。 ・授業については、学期ごとに授業評価アンケートを実施している。 ・「生命科学部 自己点検・評価委員会規程」は規定されていない。	B		
		89 自己点検・評価の結果を、刊行物としての配布、ホームページへの掲載等によって、当該大学以外の者がその内容を知りうる状態になっているか。		・自己点検・評価の結果は、現時点では公表していない。 ・授業評価アンケートの結果をホームページに掲載する準備を進めている。	C	平成24年度の授業評価アンケートの結果をホームページに掲載する。	平成24年度末まで
2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか	内部質保証の方針と手続きの明確化	90 自己点検・評価の結果を、学部の改革・改善や学部の企画・運営につなげるための方針と手続きが明確にされているか。		・自己点検・評価の結果を、生命科学部教授会において報告しているが、学部の改革・改善や学部の企画・運営につなげるための方針と手続きについては明確にしている。	C	自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための方針と手続きについて、学部内で継続的に議論を進める。	未定
	内部質保証を掌る組織の整備	91 自己点検・評価結果を、改革・改善や学部の企画・運営につなげるための委員会等が整備されているか。		・現段階では、自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための委員会等は整備されていないが、生命科学部運営委員会や生命科学部教授会において、折にふれ議論している。	C	自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための委員会の整備について、学部内で継続的に議論を進める。	未定
	自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムの確立	92 自己点検・評価の結果を、改革・改善や学部の企画・運営につなげる連携システムが確立されているか。		・現段階では、自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や学部の企画・運営につなげる連携システムは確立されていない。	C	自己点検・評価の結果を、生命科学部の改革・改善や企画・運営につなげるための連携システムについて、学部内で継続的に議論を進める。	未定
3) 内部質保証システムを適切に機能させているか	組織レベル・個人レベルでの自己点検・評価活動の充実	93 学部、学科、教員の各レベルで自己点検・評価活動が行われているか。	・H23年度自己点検・評価 ・生命科学部 授業改善レポート	・H23年度より定期的に学部・学科の自己点検・評価を実施している。 ・授業については、毎年授業評価アンケートを実施し、担当科目について、授業改善レポートを作成している。	A		
	教育研究活動のデータベース化の推進	94 「東洋大学研究者情報データベース」に、学部の専任教員の研究業績が適切に構築されている。	・東洋大学研究者情報データベース ・平成24年度研究者情報データベース更新状況	・専任教員の「東洋大学研究者情報データベース」への登録率は91.3%であり、H24年に56%の教員がデータの更新を行なっている。	B		
	学外者の意見の反映	95 学外者の意見を聴取するなど、内部質保証の取り組みの客観性・妥当性を高めるための工夫を行っているか。		・自己点検・評価において、学外者の意見を積極的に聴取するための工夫は行っていない。	C	自己点検・評価の結果について学外者の意見を聴取する方策について、議論を進める。	未定
	文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項への対応	96 文部科学省の設置認可・履行状況報告の際の留意事項、大学基準協会の認証評価の際の指摘事項について、改善のための具体的な取り組みを行っているか。	・「改善報告書」(H23.7大学基準協会提出)	・文部科学省関連の留意事項はなし。 ・H19の認証評価時の指摘事項については、H19～H23にかけて改善に向けた取り組みを行い、指摘を受けた2項目についてはすでに改善に向けた取り組みを行い、改善済み。	A		

(11) 独自の評価項目 及び 学生からの意見等

評価項目	評価の視点		判断基準および 判断のポイント	根拠資料名	現状説明	評価	改善方策	改善時期
		97						
		98						
		99						
		100						
		101						
		102						
		103						
		104						
		105						